

幼兒の教養

號二第號月ニ卷三十三第



東京女子高等師範學校内会
日本幼稚園協会

廣島文理科

大學教授文學博士

卷之三

久保良英
先生新著

久保博士等同好の士が將來國家構成に重要な役割を持つ兒童を心理學的・生理學的に研究して純粹な學的立場から貴重な成果を發表せる本紀要是恒に教育家の最新知囊たり

● 次目容内卷五十第

應用心理研究會編
久保良英主任

ロシアの計畫經濟に於ける換

工人養成に關する一二の問題

法に學士について

青年學生の見たる理想の教師
群間識別力の發達及ぶ其假名

文學博士 岩松行翁
井勝二郎介

丸井清泰

雜集

應用心理研究

第二號

會一費三同發行
冊七一年貳圓
料六錢

有効兒童と結果する相關的研究
性格の診斷に關する實驗的調査
數學の効果に關する一測定
知能検査に現れたる劣等兒の一傾向
兒童に於ける學業成績型の研究
兒童の教科成績の型に關する研究
操行評價の研究
兒童道德意識の發達
兒童の惡習
兒童の道徳性に關する一研究
改訂せる性行検査法
小學兒童に於ける體格及び體力の相關的研究
廣島文理大教授文
學士
滿洲工業専門學校教授文學士
廣島市鶴町小學校長
栗屋信夫
中廣川清隆
郡原良郎
渡邊道義郎
守田保
青木誠四郎
上條茂
古賀行義

11	8	5	1
12	9	6	2
13	10	7	3
金	金	金	4
拾	拾	拾	合輯
圓	圓	圓	
五	五	五	
拾	拾	拾	
錢	錢	錢	

兒童研究所紀要

卷十五

送定價金料金圓五十五廿七錢錢

東京市牛込區四七町天京辯東所發行

生徒募集集

本科生四十名

研究科生若干名

創立以來十八年。

大正五年東京市麹町區に創立。

願書受付三月廿日迄規則書
は貳錢切手封入の上申込ま
れよ。

玉成保姫養成所

所長

ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン
東京市外高井戸町中高井戸一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
観察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

生徒募集集

一、本科 七十名

右 募集ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川區大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎
顧問兼講師 倉橋 惣三

生徒募集集

本科生四十名

創立以來十八年。
大正五年東京市麹町區に創立。

研究科生若干名

願書受付三月廿日迄規則書
は貳錢切手封入の上申込ま
れよ。

玉成保姍養成所

所長

ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン
東京市外高井戸町中高井戸一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
観察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

生徒募集集

一、本科 七十名

右 募集ス

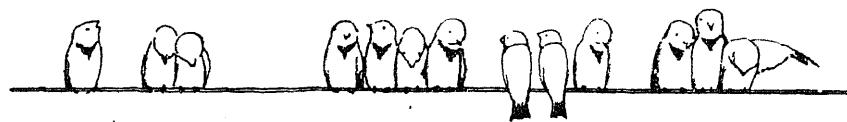
出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川區大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎
顧問兼講師 倉橋 惣三



號二第 幼兒の教育 卷三十三第

—(次) 目—

口 繪 出發(旅を主題とする保育)

早春(卷頭言)……………倉 橋 懿 三・(一)

小學校より幼稚園に望む

東京府青山師範學校附屬小學校主事 櫻 井 美・(二)

東京府豊島師範學校附屬小學校主事 小山文太郎・(六)

東京市麹町小學校長 田 島 真 治 (九)

保育についての一、二 言語上の自己中心と幼稚園に於ける社會感情

(ケーテ・シュテルン)……………多田 鐵雄譯・(三)

日本大學附屬幼稚園 山 田 伸 子・(一〇)

檜 山 京・(西)

白根 美智子・(三〇)

廣瀬 興・(三五)

及川 ふみ・(四〇)

三學期の保育……………桃の花 二種・(一)

童 話

かゝしなんかいやだね……………高 島 巖・(四)

園藝曆(二月)……………大 岩 金・(五)

遊戯 雛まつり……………土 川 五 郎・(五)

講話「いろいろの子さも」……………倉 橋 懿 三・(五)

お茶の水時代 故雨森釧・小林とし・山口政子・桂和歌子

たより……………(五)

(六)

保姆生徒募集中

一、募集人員

六十名

一、出願期日

三月三十一日限リ

一、修業年限

一年

一、特典

無試驗検定

規則書入用ノ向ハニ錢郵券封入御照會アレ

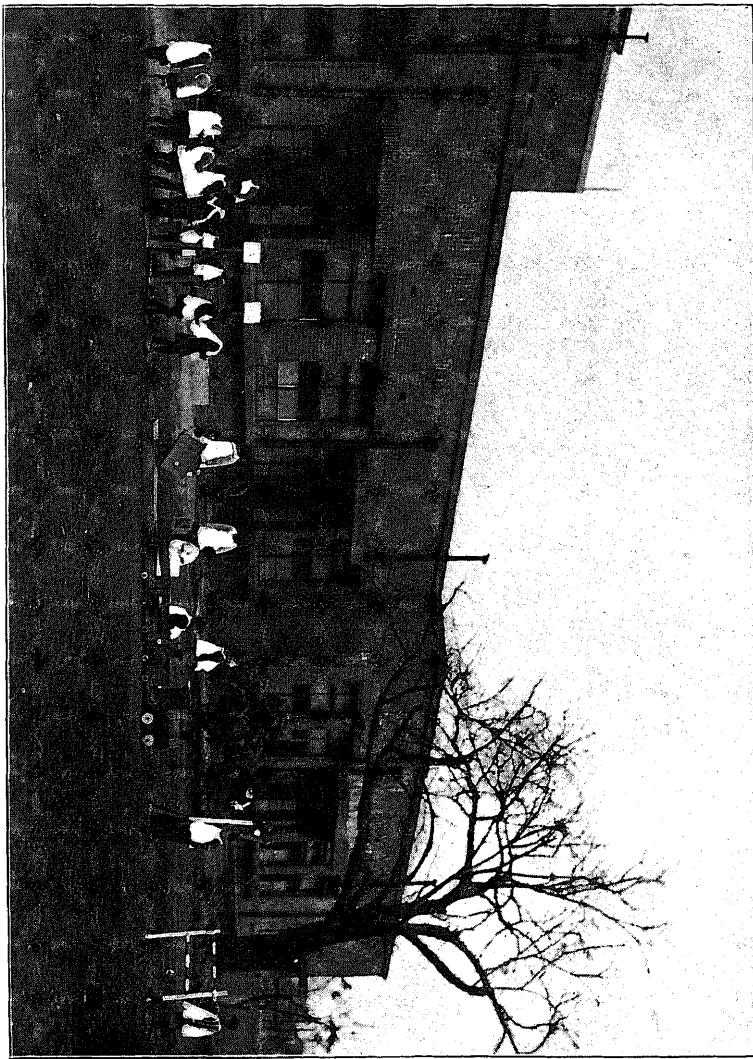
東京市淀橋區下落合三丁目一、三八八(西へ八丁)

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田

實

園稚幼屬附校學範師等高子女京東（育保るすと題主を旅）發出



幼児の教育

昭和八年二月

早 春

掃き溝めて、その一日を待ち受けてゐる幼稚園へ、まづ最初の子がにこべりやつて来る。

梅一輪々々づゝの暖かさ

ふみ、こんな古句も思ひ出される。一人来て、二人来て、だん／＼春めいてくる幼稚園の朝である。

ふらり／＼、あ／＼から來た子、さきに來て遊んでゐる子らの、あの群、この群へ誘はれて、思ひ／＼のここに、思ひ／＼の春を見つけてゐる。

梅をちこち南すべく北すべく

父こんな古句も思ひ出される。二つの群が出來、三つの群が出來、だん／＼春をわめいて來る幼稚園の朝である。

それにしても、そこから來る此の春の句ひであらう。

小學校より幼稚園に望む

口

東京府青山師範學校
附屬小學校主任 櫻井

井

美

與へられた題目について異様なる感じを起さないわけではない、幼稚園はその幼兒の保育について、幼兒の本性に基いて、其の生活を存分に充たさず様工夫されるべきものゝと思惟するもので、従つて幼稚園からこそ、小學校の教育に希望すべきものが多々あるこゝゝ信するものであります。我が國の教育が、一體に上級の教育からして、下級の教育が種々の點について自然に制限を受けつゝあつて、而かもそれが必ずしもよいこゝではないのであります。これを小學校について考へて見ても、中等學校教育のために、その本來の姿を變化させられることが多いのであつて、中等學校殊にその初學年の教育に對しては、小學校として希望すべき點を持つものであります。それ故幼稚園についても同様の所感をもつのであります。しかし上級教育の側から考へ且つ希望するこゝゝも、當該教育の本質を發揮するこゝゝ點から觀察するならば一向に差支へないのみならず、又相互に裨益するこゝゝがあるこゝゝ、思ふので、即ち幼稚園は須らく幼稚園本來の姿を發揮すべしといふことを基調として、小學校側から希望を與ふるのは無用のこゝゝではないと信するのであります。

幼稚園と小學校との聯絡關係については、私はむしろ小學校の初學年の教育の方面について考慮する點が多いと思ふの

二

であります。而して幼稚園に對しては、所謂小學校の準備といふ様なことを考へるよりも、幼兒本來の性質に従つて其の生活を充實する様に工夫することが、やがて眞の小學教育に對する基礎となり、小學教育に對する眞の準備となるものと思ふのであります。これは一般的に申したのであります、更に具體的に考へるならば、今日幼稚園の保育を受けて、小學校に進み來りたるものについて、小學教育上實地に觀察せられたる諸點について考察することが肝要であると思ひます。この點について同僚高村君の調査したところによれば、次の如きものがある。

幼稚園に對する兩親の報告

善い結果

(イ) 社交的になり快活になつて來た。

(ロ) 物を大切にして始末よくする様になつた。

(ハ) 間食をしなくなつて身體が丈夫になる。

(ニ) 遊びが上品になつた。

(ホ) 學校によろこんで通ふ。

(ヘ) 觀察力が鋭く理解が早くなつた。

(ト) 兄弟仲よくなつた。

(チ) 内氣も我まゝが目に見えてなほつた。

(リ) よく眠り、早寝早起きになる。

悪い結果

(イ) 初年級の中は成績がよいが次第に悪くなる。

(ロ) 自分の力を誇りたがり他の朋輩が自分に追ひつく

こねたむ。

(ハ) 學習態度に落付なく學科を馬鹿にする。

(ニ) 教師に馴れすぎてお世辭やおべつかをする。

(ホ) ごまかしをしたがる。

善い結果

- (イ) 社交的で團體生活に適する。
- (ロ) 自分の身の周りの始末を獨りでする。
- (ハ) 常識が發達して氣轉がきく。
- (二) 言語態度がハキハキとしてゐる。
- (ホ) 諸作法、唱歌、遊戯、手工等の外面的に勝れた色彩を持つ。

悪い結果

- (イ) 高慢になつて幼稚園に行かない友と遊ばない。
- (ロ) 小學校に入つてから、うぬぼれが強く學科に身を入れない。
- (ハ) 言葉や行動が荒っぽくなる。
- (三) 小利巧になつて、必要以上の求知心を持つ。

以上の長短兩面の報告は、大體に於いて首肯せらるゝところのものであります。しかしその缺點もいふものもある特別なるものに存することを全體的に述べられたる嫌はあるのであります。さういふ方面に陥り易い傾向があるのは事實であります。心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養せむとする幼稚園に於きましては、これ等の長所を發揮することにつきめるに同時にその陥り易い點については、これに警戒を加ふる必要があるやうに思はれます。勿論これらの警戒は獨り幼稚園に於てのみでなく、家庭に於いても、はた又小學校に於いても注意すべきものと信ずるのであります。

三

次にわが國に於ける社會の情勢からして、幼稚園施設に對する希望を申しますならば、今日の幼稚園は、中流以上の社會に於ける存在であるこいふ感じを持つものであります。これを中流以下の社會の存在たらしむる様にしたいこいふことを熱望するものであります。大正十五年の幼稚園令發布當時の施行上の注意事項なるものゝ中にも、『父母共に勞動に從事し子女に對して家庭教育を行ふこいふ困難なる者の多數居住せる地域に在りては幼稚園の必要殊に痛切なるものあり、

今後幼稚園は此の如き方面に普及發達せむことを期せざるべからず云々といはれて居るのであります。全然同感を表するものであります。のみならず所謂「此の如き方面へ」の普及發達を圖るには、實に我國教育全面の進展のために重大なる關係を有することゝ信ずるのであります。而してこの注意事項の「普及發達」といふことは、現行幼稚園令のやうに、その設置に關して任意規定のまゝにして置いたのでは、到底其の目的を達することは出來ないこゝであります。さうしても、公立幼稚園の設置に關して、一層積極的の規定が設けられなければならぬこゝであると思ふのであります。この點については勿論教育行政當局の割策に待つべきものたるは明かなこゝではあります。しかし其の基礎は一般社會の輿論にあるのであるから、先づ以て幼稚園教育に盡力せられます人々の配慮に負ふこゝの大なるものであるこゝ信ずるのであります。

四

次に私は、現行の幼稚園令及び幼稚園令施行規則を見まして、感ずることは、餘りに一般的であつて、日本の幼稚園、わが日本國民の善良なる性情を涵養する幼稚園の教育としての色彩が見えないといふことであります。

從來わが國教育が、兎角外國模倣に偏して來たといふことは、事實であります。しかしながら今や歐米文化の弱點といふものも明かにせられ、わが國傳統の偉大なる精神の内省が深められ、わが國獨自の立場に立つて、明かに日本國民の教養に從事せねばならぬ時期であるのであります。日本國民たる善良なる性情を涵養するといふことは、無論その幼時よりして著手すべきことであるのでありますから、茲に日本幼稚園教育に對しても、その色彩を何等かの形に於いて表はすことが肝要であると信ずるものであります。日本の教育はアメリカの教育でも、イギリスの教育でもなく日本の教育であります。日本國體に基づく日本精神の發揮するところがなければならぬのであります。これを具體的に申しますなれば、かの四大節に於ける儀式に由る教育の如きは、正さに日本教育の特色であつて日本精神の發揮の教育であると思ふのであります。ですが現行幼稚園施行規則に、何等この儀式教育に關して規定するところがないやうであります。これら國家的の儀式につ

いては、小學校、中等學校何れも、その教養について留意して居るのですが、無論幼時よりしてこれをなすのが優れることがあります。兎に角わが日本國民たるべき幼兒保育の意味を明かにせらるゝことが望ましきことであります。



東京府豐島師範學校
附屬小學校主事 小山文太郎

急激な生活の變化から来る強い刺戟は、それが肉體的であると、精神的であるとを問はず教育能率を低下させるものである。今まで家庭中心の生活をしてゐた子供が、急に小學校に入學するといふことは非常な生活の變化である。従つて強い刺戟を受けるのが普通である。氣の弱い子供や神經質の子供などは特に甚だしいので、ひびいのになると入學當初に食欲が急減したり、安眠が出来なくなつたりする程のものもある。一般に兄弟の少ない者や家庭から直接に學校生活に入る子供などは特にひびい様である。幼稚園は、此の急激な生活の變化を餘程緩和することになり、此の方面だけでも大きな力となるのであるが、小學校入學期に近づくにつれて學校生活の様式に近づけ、出来るだけ入學によつて受ける刺戟を少くする爲めに努力して頂きたいものである。といつて小學校の教科課程を豫備的に覚えさせる意味ではない。文字を書くことや、読むことを強要したり、無理な數生活を強ひたりすることは勿論幼稚園の仕事ではない。五「キログラム」のものしか持てぬ者に七「キロ」八「キロ」のものを持たせようとする様なもので、生理的又は心理的の發達を待てば何の苦勞もいらないことである。たゞ小學校の仕事を理解し小學生としての態度に近づけて頂きたいのである。幼稚園に於ける保育項目は小學校に入れば教授課程となり、系統的に配列された仕事がある。その仕事を完全に遂行することの出来る様な態度にして置くことが必要なのである。子供の持つ能力のすべてを、各方面に伸びくらみ充分に完全に勵かせ得る態度が最も望ましいことなのである。小學校の先生を正しく認識してゐなかつたために先生の前へ出し急に固くなつてしまつた

り、萎縮してしまつたりしてはどうにもならない。小學校でも一年生の受持になれば、鼈甲ぶちの眼鏡も金ぶちに更へ鬚もきれいにして出來得るだけの形の上までも印象をやらかくしようとするのである。幼稚園に向つての多々ある注文の中重なもの左に書きつらねることとする。

一、學校生活の豫備知識

例外なしに子供は伸びよう、進もうとする意慾に燃えてゐる。優越慾の旺盛なことはそのあらはれである。土が盛つてあればいちばん高い所に登つてお山の大將を氣取り、並ぶにも先頭を喜び、靴をはくまで一番を争ふものである。年が七つから八つになつた事までが無上に嬉しいのである。まして一年生になることは大きな喜びであることは言ふまでもない。其の一年生としての生活にあこがれ、好奇の眼を輝かして其の日を折折り待つてゐる子供に小學生の生活を正しく認識させて置くことは子供等の期待をそのままに満足させてやることになるし、生活の變化から来る刺戟を少くしてやることになる。兎角世間には學校に行つたら斯うもしなければならぬ、あゝもしなければならぬとか、斯うあつてはならぬ、ああしてはならぬなど、兒童生活を十重二十重に縛る所の様に教へ、親自身が子供に對してなす躰の鞭の代りに學校を悪用される傾向がないでもなかつた様な感がある。子供が學校に行けば自分の生活の日々を監視される所の様な緊張した態度で怖々來る様であつてはならぬ。さいつてまた行き度い時には行き、嫌な時にはなまけることいつた態度になつてもしまる。たゞ兒童の向上慾を抑へ喜び勇んで學校へ行ける様に、また容易な氣持で學校へ行ける様に仕向けて頂かなければならぬ。

二、先生及び友達といふものの正しき認識を與へること

小學校に於ける先生は入學當初の兒童には、怖いもの、吐るもの、まるで檢事と判事との役目を兼ねたものゝ様に思はれてゐた時代もあつた。最近は時々先生を呼ぶのに間違へて「小父さん」と親しげに呼ぶ子供がある様になつたのは喜ぶべきことである。小學校には幼稚園こちがつて直接關係のうすい多くの先生の居ることや、上級生である多くの生徒のゐる

ここなごも正しく教へて置くべきである。新入生は先生よりもかへつて多くの元氣のいゝ上學年の生徒なきに威壓を感じるものゝ様に思はれる。多くの生徒は新入生に對して兄ごし姉ごとして待つてゐることなきを教へて置くことは、容易な氣持でこれ等に接し、何等警戒することなく仲間入りが出来るものである。

三、規律的生活になれしむること。

一學級五十人前後の兒童を一人の教師が受持つのである。思ひ／＼に勝手な時に勝手な事をさせて置くわけには行かない。多人數の協同生活には、それ／＼相當な規律がなければならぬ。子供の頭を動かす點に於ては各人あらん限り自由に思ふ存分に動かせ得る様に骨を折つてゐる所以はあるが、始業時間までには登校せねばならぬし、歸校時間までは居なければならぬ。教室に入るべき場合には揃つて入らねばならぬし、相當な時間仕事を続けることも出來なければならぬ。或る程度の規律的生活に慣れさせて置いてほしいのである。入學當初の兒童には此の點が一番骨が折れる様である。

四、自律的生活をなさしむること。

學校生活の間に於ける自分の身のまはりの事々を自律的に處理する様習慣づけて置く事も大事な仕事の一つである。何もかも自分一人の判断では行ふ事が出來ず、一々聞かなければ手も足も出ないといつた態度であつてはこまる。持物の始末なきについても他人の手を借りずに處理出来なければならない。ランドセルから本が出せなかつたり、上靴との穿き更へが出來なかつたり、便所へ一人で行けなかつたりする子供が間々ある。

五、幼稚園から學校への贈物。

新入生に對する受持教師の第一に骨折ることは各々の子供をはつきり知らうとする事である。何といつても入學したばかりの子供は幾分の心的緊張はまぬかれないで、思ふ事も充分には言はないし、表情も一般に圓いものである。始めの中には仕事も充分にはさせられないで、ありのまゝの子供の姿を見る機會が少いのである。特に女の子供なきは表情が

小さいので、これによつて心的状態を読み取る事は困難な仕事である、各々の子供の性格をはつきり知る事いふことは教育的效果をあける爲めの第一步の大重要な仕事である。児童の父兄からもそれへ子供の性質などの大體は聞き取ることが出来るが、家庭に於ける児童の生活は兩親、兄姉、弟妹の間に於ける生活であつて所謂総の關係に於ける生活である。それに一般父兄には同年輩の多くの児童との比較は出来難い仕事である。したがつて知能の方面でも、一般より進んでゐるのやら遅れてゐるのやら、普通なのやら、變つてゐるのやらはつきりわからぬものである。幼稚園に於ける生活は同年輩の間に於ける生活であつて、家庭生活では表はれぬ生活態度をあらはすものである。それにこゝでは一般児童との比較も出来るので正しい批判を下すことが出来る。しかも手の行き届いた幼稚園で細かく觀察した材料は實に貴いものである。一學期の中程になつて「ランドセル」を「ダンドセル」と發音してゐる児童を發見したり、「ダイブツ」を「ライブツ」と發音してゐるのを見つけたり。児童の發音上の事だけについて考へても五十人の子供を一人の教師が見て行くことになる。仲々行届きかねるのである。一日でも早く子供をはつきり知ることが出来れば非常な教育能率の増進を來すわけである。其の児童の教育上参考となる様な記録を細大にかゝわらず學校への贈物として持たせて下さる事が最も望ましい事である。

保育についての一、二

東京市麹町小學校長 田嶋眞治

幼稚園の保育を受けた子供の躊躇方については、尋常小學に上つてから、よく一種の批評を聞くことがある。教師に對して慣れなれしいとか、教師の威厳を感じなくなつてゐるとか、我儘だとか、學習に對して深い興味を感じなくなつてゐるとか、清新さを以て學習に勢を出さないとか、一種の學校病に侵された者が多いとか、言葉遣ひが悪くなつたとか、是

等は幼稚園保育の任に當つてゐる者に等しく深い反省を試みねばならぬ事ではあるまい。

同じ幼稚園にしても、その經營者及び保育擔當者的人格、識見、流儀、色調、經驗の深淺、保育に對する信念の厚薄、その幼兒の環境の善惡差別等によつて一概に片付けることは隨分無理な場合がある。けれども蓋然的に言つて見る、右の様な批評に對しては、一應その關係者の側では沈思默考に値する好個の参考材料であるに違ひない。たゞへゞの様な批評があるとしても、保育本來の價値は牢として動かないものであつて、ただ保育の仕方いか、その環境いかの條件の如何によつて保育の價値に影響があるものだと思ふ。吾々は今すぐに環境を變化させるることは出來ないから、保育本來の使命に幾度かの反省と熟慮をなすことが肝要ではあるまい。

人は己れの仕事に幾何かの年月を経る、餘りその事については深い意義を改まつた氣持で考へて見る事に怠情なものだと思ふ。吾々は、相當の年月を経る、その仕事に對して一種の體験といふ實に尊い獲物を得ることには、非常に大事な事であるけれども、其の年月を反比例に、その仕事に對しての熱愛と清新さを見ることが薄くなり勝である。特に相手が子供であるから遂に簡単に考へて過ごすことが少くあるまいと思ふのである。どうしても、清新な興味が續く時に初めてその仕事に熱が出來てゐるもので、その仕事にも實が入つて來るものだと思ふ。

保育者が、「自分が仕立てるこんなに物見えが達者になる、こんなに俐巧になる」と、如何にも驕り顔にやつてゐる、案外な子供が出來て來るものだ。子供は大人が想像以上に銳敏な感受性を有つてゐるから先生が少し何か物憂い氣持で、不精ぶしように子供に對してゐる、子供は先生に對して興味を失つて、さつさと先生から離れてしまう。それは何か童話でもしてゐる時によく表はれて來る事實である。先生が「これを一つ話して聞かせませう」と、その童話材料に對して、深い造詣と感激を有つて非常なる清新な氣持一杯で話しかける、たゞへ話し方は多少下手でも、何時いかに、子供達は先生の話にすつかり引込まれてしまふ。世の大豪諸氏のお話の時、成程「そこだ、と深く考へさせられるこ

ことがある。

幼稚園の保育は、或る意味から言へば、小學校の教育よりも、むづかしい事がある。園児が何か観察して疑問が起つた時に發する問ひの中で「これなあに」、「どうしてゐるの」、「どうして」などと言ふ時に、教師の答へは中々困難である。子供の問ひの形式は簡単であるからその問ひの意味が果して何處に存在するかを明瞭に突止めることが困難である。子供の問ひには、確實な答へを要求すると言ふ目的意識が漠然としてたゞ或る物に對して瞬間的に問ひの形式で表現しただけで、後の答へは必ずしも問ふ所に非ずといふ底の問ひが缺くない。一度或る事を問ふてもその答を待つ間もなくまた新たに著眼して轉々と疑問が移動することがある。初めの問ひに對して教師が答へる時は違つた事を考へてゐる時だから教師の答へは子供の心にびつたりと響かない、言はゞ子供の心的活動の邪魔になる事がある。そこで教師は子供の問ひの内容を明かにすると共に、その間の要求の程度、その答への速度等に深い注意を拂ふ必要がある。

或る珍奇なる動物なきを觀察する時に、驚きから求知慾こなつた時には、明瞭に理解する様に答へてやらねばならぬ。子供は、教師の不完全といふか、答への程度が高過ぎたり、低過ぎたり、子供の問ひの氣持と大なる隔りあつても、その隔りのある事を判断する力がない時には、違つた答へをしても、簡単に自身の問ひに對して答へをして貰へたと言ふ丈けで満足することはある。その邊の氣持を明瞭に判断することは教師側の方で相當の子供の心理を理解する丈けの力と経験とを有たねば出來ぬ當然である。

幼時期の子供に若しも事物に對して餘り疑問を起さないとか、たゞ疑問が起つても、それをはつきりと教師に尋ねるこゝが出來ない子供に遭遇した時には、餘程注意すべき事であらうと思ふ程に、問ひの濫發をしたり、折角問ひを出しておきながら教師の答を必ずしも必要としない様な子供も亦注意すべきものであらう。

言語上の自己中心と幼稚園に於ける社會感情

——ケーテ・シユテルン——

文學士
多田
鐵雄
譯

（これは獨逸モンテソリー協會から「現代に即した教育」なる標題で一九三二年に刊行された單行本中の一リポートで

以外に悉いことを知り得ぬが、このリポートは、昨今児童心理學界で注目の的となつたピアジエの主張に基いての一考察であるところから之を譯出して見る氣になつたものである。なほピアジエに就いては、波多野氏が児童心理學なる

著書で講述してゐるし、丸山氏の幼児の心理に於ても言及されてゐる。

ピアジエは言語上の自己中心なる概念を彼の著書「幼兒の言語と思考」中に於て打ち樹てゝゐる。彼は六年未満の幼兒の言語表現が意思傳達に必ずしも役立つてゐることは限らない、云ひ換へれば幼兒の言語表現の大部分は會話の相手に意思を通ずるべく何等役立つてゐないことを發見した。云ふのは、返答に重きを置かず、獨り言の一種として口にされるやうな言語表現が在る云ふことである。かかる獨り言をピアジエは自己中心的表現と名付けて、それゝ或る相手に向けられた處の表現とを相對立させてゐる。ピアジエに據れば、この後者は「社會に對して向けられた表現」に屬するもので、彼はそれを „langage socialisé“ と命名してゐる。又自己中心的表現に屬するものは既に誰も知る處のあの幼兒の今し方聞いた許りの言葉は、既に誰も知る處のあの幼兒の今し方聞いた許りの言葉の反復、(幼兒は外の色々の玩具を弄ぶやうにこれを弄ぶ)。

及び普通の獨り言、及び Kollektiv-Monolog (集團的獨り言) の三つを擧げてゐる。普通の獨り言はやがて、幼兒はこの集團的獨り言で、或る一つの集團に向つて物語るのだが、その際幼兒に取つては誰か、聽かうが、誰か答へやうがは無關心である。この場合幼兒はその社會(集團)を意識してゐるが、その或る特定の聽取者に對してその言葉を切出してゐるのではない。その言葉は了解されて欲しいやうな個人的な報告をも又、何等かの作用の惹起するところをも目的として居ない。

言語上の自己中心云々とはエゴイズムとは何等關係はない。又例へば幼兒が自己の行為と比較して或る相手の行為を批判して非難する場合でも、かかる往々は非社會的に響く表現でも、自己中心的表現として數ふべきではなく、むしろ社會的、即ち「社會に對して向けられた表現」をして數へらるべきことを決定的に強調してゐる。論争(一)
これは全然社會的言語だ——の場合などにエゴイズムが屢々現はれるることは明白なことであるが、私はその反対に集團的獨り言、即ち言語上の自己中心の形式の中に於て、

利他的感情が現はれることが屢々起るや否や(二)に興味を感じた。學齡前の幼兒の言語に於ける自己中心的表現の百分率に就いては、エルザ、ケオーレルはピアジェが認定せるものより遙かに低く評定したが、エルザ、ケオーレルは本年度のハンブルク心理學者會議の席で『學齡前幼兒の全體活動に對する言語の寄與』なる講演中で、ピアジエの結論に對して、ウイーンの幼稚園で得た廣範な實例を基礎として言及し、兩者間の調査結果の相違は、夫々兩者によつて觀察された幼兒に及ぼしてゐた夫々異つた環境の影響による所を述べ、環境としてのウイーンの幼稚園(二)アジェの Maison der Petits (子供の家)を比較し、この子供の家ではモンテソリーの子供の家に於ける同様、可成極端な無口が支配してゐる事が、其處の子供が會話よりも獨り言をより多く話す因になつてゐるのだと説明した。

我々の當園はこれ等の結論につき論義すべき組織立つた調査はなし得なかつたが、それに就いて他の多くの幼稚園、子供の家で、かかる記録がもたらされることが衷心希望するものである。當園は數年來特別の形式で幼兒の日常の

遊具選擇を記入した遊具記入簿と共に、注目に倣する觀察を直ちに記入しておく一つの記錄帳を備へ取扱つて來た。此記錄帳を私はこゝで頁を繰つて、勿論當園が自發的な獨り言に對する機會を幼兒に與へてゐるのではあつたが、然し、さもかく此言語上の自己中心が、幼兒の社會體への漸進的參與及び社會關係の漸次自覺を伴つてゐる事を證左する言語表現を僅少なこの記錄帳の中から可成に發見した。

當園で幾度も觀察された獨り言は大抵は仕事に伴つてゐる。さて幼兒云ふものは自分自身を先へ先へとあぶり立てゝ行くか、或ひは自分の希望通りになるやうに物に向つて心から勧告する。

ミカエル。二年七ヶ月。木製立體で高塔を積上げたが、小さ

い立體の上へ大きいのを重ねたので、それは壊れてしまつた。

又やり直して両手で一生懸命その立體をおさへ重ねて行きながら繰返し叫んだ。「倒れないやうに、ほら、しつかり立つて!!」と。

エルヴィン。三年四ヶ月。長梯積木で塔を作つてゐた。五つづつの積木で二組の塔を作つた。それが奇麗に見えたので大得意で、喜びのあまり噪りつけた。「これは倒れやしないぞ。ちゃんと倒れないやうに僕わかつてゐるんだよ」。

アリッツ。四年六ヶ月。圓柱歎木をすつかり引き抜き出して、

ちつと考へてゐたが、その穴を指で順々に軽くさわつて行きながら低聲で一、二、三、……と十まで數へては又、幾度もそれを繰返して數へてゐた。

マルギイト。二年十ヶ月。描きなぐつてゐたが、その際、いつも小聲で獨り言を云つてゐた。「描いてゐます。描いてます。描いてます」。

以上の如き普通の獨り言の外、集團的獨り言も發見され

る。
エルヴィン。五年二ヶ月。ウルゼルが一枚の繪の下敷をも持つてゐるのを見て、一つをウルゼルに持つて行き、そして皆の方に向つて云つた。「ウルゼルさんは下敷がないので、僕一つあげだんだよ」。

ローゼロッテ。四年三ヶ月。(誰に話しかけるでもなく。「呼
鎗が鳴つてゐるわ。誰も扉を開けに行かないのかしら。それから一寸経つて。「さあ、いよいよ、この黃色い着物のお嬢ちゃんが立つて行かなきや、なりません。(扉を開けに行く)。それからすぐ、一つの答をも期待せずに尋ねた。「でも、今に未だ誰か外の人たちも開けに來るんぢやないかしら」。

ブーゲー。五年四ヶ月。珠數繫き組で遊んでゐたが、私(ケーテ)の方を振返りもせずに云つた。「ケーテ先生、何故こゝのお部屋がこんなに大きいが、今判つたの。この珠數繫き組のためでせう。僕んとこのお部屋ぢや。きつとこんな長い長い組は入り切れないや」。

新入の幼兒が母を追つて泣いたので、皆は(こゝは子供達ばかりでお母様方は居るものぢやない)のだと云つてなぐさめた。

「若じ、貴君が何がしてもらひたいことがあるなら、私はこゝにゐますから、何でも仰言ひ」と私が付加へた。その時奥の方でミカエル。四年四ヶ月。は此方へ見向きもせず、相變らず繪を描きつづけて行きながら云つた。「そうか、そんならいいや。れ。そうだろう」。

保母Aが一寸暫らくの間他家へ預けられてゐたレナーテに、もう自宅へ歸つてゐるかどうかをたづねた時。ギュンテル、五年六ヶ月、が口を挿んだ。「レナーテさん、そのニコニコ顔で、君がもう自分の家にゐること誰にだつてわかるさ」と、それつ切り、その會話には加はらないで。

以上の獨り言に對立させるために遊具遊びの際に云はれた言語の中からその断片である一二三の會話の例を擧げて見

やう。これ等は「社會に對して向けられた表現」、即ち競争意識並びに承認、感情移入を表明する處のものである。最初に競争意識を證明する會話を利用すれば、

クリスティルとリロとが繪を描いてゐる。ク「君、昨日僕何處へ行つたか知つてるかい。——シャイトニッヒへ行つて來たんだぞ。」レ「僕なんか、百べんも行つたことあら」。ク「僕だつて、千べんも萬べんも行つたんだ」。

ベアトリツエとサビイネ。ベ「私はこの間からの咳が未だ癒らないの」。サ「病氣になつた時、貴女どうなつたの。ねえ、一體どんな風になるの」。ベ「咳や鼻水が出るんだわ」。サ「私も咳や鼻水出るわ。私の方がすつと澤山咳や鼻水が出ることよ」。ベ「うそよ。私の方がそれよがもつと餘計に鼻水が出てよ」。

エス、フリツツとサビイネ。フ「君、ローマ數字を知つてるかい」。サ「ローマ數字つて一體なあに」。フは得意に微笑して「君未だ知らないのかなあ」。サ「でも私なんか、ABCのAの字知つてるわ」。

エル、フリツツとステファン。(汽船に關する長い談話の間で)ス「でも僕がお父さんと乗つたのは川蒸氣ぢやなかつたんだ」。エ「アラーグには好い大きな汽船があるよ」。ス「ブレスラ

ウにだつて大きな汽船あるとも。僕なんか君、あのね、ステチンへだつて行つたことあるんだぞ」。エ「そりやブレスラウにも

大きな汽船あるけどね。ブラークにはとても大きな汽船があるんだ。——ブラークの汽船はそりやすてきに大きいんだ。君なんかには考へきれない程大きいんだ。ブラークの汽船と云へば、どんだけ大きいか大きさがわからない位大きいんだ」。(他幼兒達が言葉を挿み出して、その談話は先へ進められた)。

以上の會話に於て、それが體験に關することであれ、自己の行為に關することであれ、たゞ法外に高昇させて行くこの喜びが認められる。次に優越に際して妥協的な利他的な調子のものを擧げれば、

レナーテとシルビヤ。(保姆Eが新らしい色鉛筆を持つて來た。シルビヤはそれがどう云ふ風に包まれてゐたかをちつと見ておだ。レナーテがすでに登園の途中でそれを見せて貰つてゐたことをシルビヤは知らない)。レ「私が一番最初にこの色鉛筆見たんですね」。レ「ちがふわ、E先生、私に一番最初にこゝで見てくれたんですね」。保「先生は今朝こゝへ来る途中でレナーテさんと一緒になつたので、その時、この色鉛筆はレナーテさんが一番初めに見たのです」。レ「そら、ね、私が一番初めでせ

う。え、私が一番初めの又その一番初めに見たの。そしてシリヤさんはたゞ、一番初めに見たのね」。

ビーゼル。(マリアン子の机のとこを行き過ぎながら)「ほら見てごらん。この子の描いてるのがどんなだか。少し線からみ出しちやつてゐるぢやないか。でも、外のとこは、とても立派に出來てるけど」。

ルーディ。(一枚の大層上手な繪を持つて來て)「これどう、上手だらう」。(彼は非常な賞讃を博した)。するとちつと優越感を抑へて、「僕、これ一寸だけど、シルビヤさんの繪を真似して描いたとこあるのさ」。

サビイ子。(周圍にゐる子供達の繪を見比べて)「こんな年の小さいわりにはベーテルさんの繪が一番うまいわ」。(ベーテルは満三年にならぬ子である)。

フーゴー。(四年三ヶ月のフリッツの繪を前に批評しながら)「僕が若しこれ描いたなら、こんなの描ないけど、君が描いたんだから、それにしちやとてもうまいよ」。

ズーゼル。(平衡遊びの際、當年満三年のサビイ子が普通は大きい子供達だけが試みるやうな重い大桶積木を両手に取上げるのを助手として見てゐたが、皆の方に叫んだ。「どうぞ、皆騒が

ないやうに、サビイチちゃんの邪魔にならないやうに、こんな
小さいのにあれをやつて見てゐるんだから」

ズーゼル。(上と同じやうな場合、小さい子供が皿の平衡遊び
をじやうとしてるのに向つて)「若じかして皿が壊れてしまつて
も、君ならちつとも構はないんだから、安心しておやりよ。
(やり損じても小さい故、無理ないと意で)。

慣れた古い幼児達に取つては新入の幼児をいたはるこ
が又特別の喜びである。この場合も又、新入の年嵩の子供
には新入の年の小さい子供にこは違つた玩具を與へたりす
るやうなデリケートな感情移入能力が見受けられた。

ヘルガ。(未だ満二年にならぬペーテルを何くれといたわつて
ゐたが、或時、ペーテルが音樂の時間に、參觀席の腰掛によち
登らうとしてゐるのを見て、ヘルガは自身のためにはいまだか
つて敢て出し得なかつた程の大聲で、部屋一杯に遠くから叫ん
だ)。「エリカ先生、どうかペーテルさんに手傳つてやつて頃戴。
私たちや、あの子持ち上げられないんです」。

スザン子。(ハンナにリボン結びを説明してゐる)、「ほら、
よく聽いてらつしやい、そつちの手へ黄色いリボンを持つて、
こつちの手へ緑色のリボンをね。ほらさあ」。ハンナは見向きも

しないし、注意もしない。ス「ハンナちゃん、ハンナちゃんだ
ら、ほら、よくこの両方のリボンを見て、なぜ、こつち見ない
の、さあ」。ハンナはまるで注意せず、外の子供達の方に氣を取
られてゐる。スザン子、はじつと忍耐して自分でそのリボンを
結んでから、その板をわきへ片付けて、ス「さあ、今日は貴女は
教はりたくないのね。『ちや、今度にしませうね』」。

サビイ子(クリスティルに描き方を教へて)。サ「それぢや駄目。
私が教へてあげませう。その棒の外へはみ出ないやうに書きな
さいね。わかつた。クリスティル、(おづおづと二三度筆を動かし
た後)ク「これでいいの」。サ「いいえ、未だ駄目だわ、も一度數
えてあげませう。こゝは皆、緑色に塗るんですよ、はみ出さな
いやうによ。そして、こゝんところは黄色に、そこは赤くね。そ
してこゝは青く」。その時、お黙りの時間になる合図が告げられ
た。サビイ子は劇しく叫んだ。サ「未だお黙りの時間にしちや駄
目です。だつて、クリスちゃんは未だ出来上らないのです」。

(こゝに注目すべきは、サビイ子は是迄の斯様なお黙りの
時間になる合図の際に、やりかけてゐた仕事の爲に未だ曾
つて待つて下さらないなど自分の爲に申し出たこゝではなく、
絶対、断乎とした態度で仕事を中止してゐたこゝである)。

目覺めつゝある社會感情を確立せしむべき場合の最も困難なる問題は手放すこゝ云ふこゝである。されば色鉛筆の貸借云ふこゝ、即ち自分が折角選んだ鉛筆のその色を他の子供が用ひたく思ふ場合には、この貸借云ふこゝが一つの特別の役割を演ずる。同様に繪型枠も、それは各自が繪型枠二個云々色鉛筆五本づゝ選び取つてよろしい云ふしきたりになつてゐるので、夫を一度幼兒が自己の机の上に持つて來てしまふ、恰かも自己の私有物の様に思つてしまつてゐる故に、かうした時の繪型枠も又然りである。

エバ。ビイツエ。ペーテル。(ペーテルは二人のこへ來て。枠を一つ貸してくれと願ふ) エ「駄目。私は未だ使つてゐるんであります。ビイツエが直ちに一つの枠をペーテルに貸與へる。ペーテル嬉しそうに。エ「ほんとに君親切だね」。

レナーテとシルビヤ。レナーテは部屋を横切つてはシルビヤのところへ色鉛筆を借りに來る。そのたびに、改めて、丁寧に貸してくれるやうにたのむ。

シルビヤ(レナーテを後から呼びとめて) 「もう聞きに來なくとも大丈夫よ、きつと貸してあげるわ」。

クラウディア。子供等は庭で栗拾ひをした。クラウディアは

特に澤山拾つたが、保母が他の子供にも少し分け與へるやうに云つて聞かせたけれど始めはそれに應じなかつた。けれど引上げて來る途で突然クラウディアは一つうつ、自分のポケットから栗を出して、夫を小さいエルビンのエプロンの中へ押込んだ。

保母E「少しば貴女の分も取つておきなさいな」。ク「いゝえ、もう私一つも要らない。私どんどん此小さい人にあげてしまふわ」。(そしてすつかり與へてしまつた後、クラウディアは両手を高くあげて) 「でも私まだゼロだけ栗を持つてゐるんですわ」。

天性内氣な幼兒達が遊具遊びの間に初めは自分獨り切りで遊んでゐるが、終ひには獨り切りぢやない方の氣持よさが制つて、獨り切りで遊ぶこゝが段々少なくなつて行くことは、よく有る例である。私はかゝる瞑想的な態度をも充分理解することが出来る。そして満五歳になつてもなほ他の子供はつき合へずにある幼兒が、すつこ獨り切りで遊んでゐるが、一度誰か他の幼兒と近付きになる、實は既に社會感情も充分目覺めてゐて、天から降つて來たやうに特に鋭い感情移入を示す例も少なくない。それ故に、言語的に自分の殻から脱出するこゝが出来るやうに各々の幼兒に或る刺戟が與へられねばならないこゝに例外なしに必要

なこゝだと思はれる。されば當園では、遊具遊びの後に前日の凡ゆる経験が語り合はれる機會が提供されるやうに、午前のお八つの時間を決して缺かしたこゝはない。保母も共にまざつて語り、保育上重要な例を窮屈でなく折を見て口を挟み、そして若し保母が彼等の會話を傍で聞いてゐれば、自分に信頼して來る幼兒を殊に早く知り得るのである。遊具遊びの時間を長く取る必要からこの共同お八つを廢止するこゝは我々には邪道考へられる。何故なら我々の経験に依れば各自の自由作業に對しては一時間半もあれば充分事足りるのである。當園ではこのお八つの後に、或ひは折紙、或ひは粘土細工、或ひは共同作業の幾つかのグルツペが出來るのである、そして當園の毎日の第一段階は平靜を旨とした會集であり、その會集は獨り言から次第に近隣の幼兒との低聲な會話になつて行つて終るのである。その次にこんごは長い會話の時間であるお八つの時間が来る。前掲の幼兒の會話も要するに他の幼稚園でもかゝる言語表現を記録するこゝが行はれんこゝを希望して述べたわけだ、當園ではこの記録は、かのカツツ氏の著「幼兒の會

「話」に同様に充分利用されてゐる。例へば當園の月々の母の會はこの日誌によつて、この幼稚園なる社會内に於ける児の態度に對する深い理解を兩親達に便ならしめてゐる。自由選擇の活動の平和的雰圍氣が各幼兒に落付きてこそ平安云ふ影響を及ぼすものである。云ふことはモンテソーリー、システムに反対な側からも漸次容認されて來てゐることだが要するに私の切言したい點は、幼稚園に於ては、児間の友好的關係が、各自の細心な遊具遊びと同程度に價值あると同じく、幼稚園に於ては、モノローグ（獨り言）とディアローグ（會話）とが同じ程度に屢々登場する。云ふ事實、及び、この幼兒の言語發現の二通りのものから強い社會感情の發展云ふことが推理し得る事實である。幼兒の發達の各段階に於てその自由は成長を保護すべし云ふ、彼の保育原理を忠實に守らんとする幼稚園ならば、三歳から四歳の幼兒の自己中心的表現に——幼兒がそれの中で、別段特定な相手に了解を願ふ必要もなく、自己自身云々或ひは世界云々談り合つてゐる處の、その自己中心的表現に——

衛生訓練に就て

日本大學幼稚園 山田仲子

十一月號に於て、衛生訓練その概況を述べさせていた
だきましたが、丁度一ヶ月に渡り施行いたしました豫防注
射も、十二月末完了いたしましたので、その實施狀況の一
端なりこも御参考迄にお目にかけたいと存じます。

注射の期日が定められ、その日は豫定の保育が終る、
園児は平氣で治療室に這入ります。治療臺に腰掛けて、信
頼し安心しきつてゐる幼兒は顔を擣めるこもなくぢつゝ
注射の針を見つめてゐます、少しでも痛くないやうに、針
は園醫先生の心盡しで何本でも取換へられます。

デフテリア、百日咳の豫防注射の兩者を同期間に受け
た者もあり、又歯の治療も併せ行つたものもありますので、
施行期日の配置には周到の考慮を拂ひました。少數の風邪
その他の事故の者その他は、一ヶ月に渡つてよく之を完了す
ることが出来ました。一人として發熱を伴ふが如き複作用

を起す者もありませんでした。費用は藥價相當の實費を以
て之に充てました。
社撰ながら左の表を以て概況の報告に代へさせていたゞ
きます。

尙斯様な豫防注射の實施や歯牙治療の如く一定期間を定
めて行ふものは、園児の平素の訓練、家庭との協力等が
大切ではあります、更に園醫の保育に對する理解、保
姆の醫療に對する心得云ふが如きも見逃すことは出來ま
せん。本園々醫中島義四郎氏は、斯る見地から、衛生保育
に對して深き理解を有たれて居りますが、同氏の談をお借
りして、この拙い稿に多少なりとも意義づけたいと思ひま
す。
「幼稚園へ行くと色々な病氣をもらふから困る」こよく云
はれます、之に對して、傳染病に罹り易い小兒の集りで

豫防注射實施概況

概況		人員百分比
備考	期間	百日咳
豫防注射を受けし者	(1回) 百日咳	七五・五一%
嘗つてデフテリヤにかゝりし者	十一月二十三日	六一・一二%
風邪等の理由で受けざりし者	十一月二十九日	一八・三七%
嘗つて百日咳にかゝりし者	十二月九日	三四・六九%
風邪等の理由で受けざりし者	十二月十五日	四六・九四%
(2回)	十二月二十日	一八・三七%
(3回)	十二月二十五日	一八・三七%
歯科治療は十月初旬より十二月二十日迄		
(5歳) 三〇%	(6歳) 三〇%	(7歳) 五〇%
兩者同時受けし者	二八・七八%	
歯の治療と併せ行つた者	三四・六九%	

あるから仕方がない等と諦めを云つては居られません。これは真剣に考慮されなければならない保護者の聲なのであります。それで幼稚園の貴い使命を完全に果すためには、園長も保母も園醫も、互ひに協力して、こんな不平を家庭

から聞かされない様に努力しなければならないと思ひます。

幼稚園で傳染する病氣には、消化器系のチブス、赤痢、疫痢等よりも、空氣や、咳嗽の飛沫や、玩具や、遊戯時のお互ひの接觸や、さうしたものによつて媒介される病氣の方が多いのであります。例へば、流行性感冒、百日咳、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、デフテリヤ、猩紅熱等であります。又タムシやヒゼンの様な皮膚病も時に幼稚園で児童間に感染傳播することがあります。夫れで此等の疾病を幼稚園で流行させない爲めには、如何すればよいかと云ふに、成可く早く此等の疾病に罹患してゐる児童を發見して、登園させないやうにし、玩具その他の器具、保育室等を消毒することが大事であります。其の爲めには園醫が毎朝登園児童の顔色だけでもよいから一度見てやることが必要なのであります。けれども是は實際は色々の關係上至難なことでありますから、園長や、保母の方々に此等の疾病的症候に関する簡単な智識を得ててもらひたいものであります。其他私は是等傳染病の豫防法として豫防接種の出来るもの

は、之を園児にすゝめて施行しておこなが、幼稚園児童の積極的保健法として保健上有意義なこことあると思つて居ります。

現在上記疾病中、豫防接種の出来ますものは、百日咳、デフテリヤ病であります。猩紅熱、麻疹の豫防接種等も或人は出来るご申されますが、未だ完全なものではないらしく、一般に認められてゐないやうであります。

百日咳は百日咳菌によつて、ワクチンが造られてありますから、之を以て児童に注射すれば或程度までは豫防の効果を擧げ得るこゝ信じます。次にデフテリヤですが、此の豫防接種は、遂ひ最近までは不完全で危険多く一般に行はれなかつたのですが、近頃は醫學の進歩と共に、この方面が大いに開拓せられて、無害有效なデフテリヤアナトキシンが製出せらるゝ到り、極く最近には更に精製されたデフリテヤトキシン(デフテリヤ菌毒素)を原料とするアナトキシン(傳研製)さへ製造販賣せられるやうになり、デフテリヤ豫防接種上に一大光明をもたらしてゐます。元來デフテリヤ云ふ病氣は早く發見して、デフテリヤ治療血清

(デフテリヤ菌毒素を以て免疫した馬の血清)さへ注射すれば、直ぐ治癒する病の様に一般の人が考へてゐるやうですが、實際は早期診斷が困難であつたり、又は血清注射を受けたら體質の關係で直ぐ死亡したり(之は極く稀なこ事ですが)、又は今までならずとも後になつて血清病が強度に現はれて困難したりする人があつて、何時も何時もそう組し易い病であることは限りません。却つてなか／＼恐しい場合のある病なのです。それですからデフテリヤアナトキシン云ふ様な結構な豫防接種剤の製出せられてゐる今日に於ては、小兒保健上デフテリヤ豫防接種を施しておくことは、甚だ望ましいこことあると思ひ、本園の児童達にもおすすゝめした次第であります。尙從來は、一家庭にデフテリヤ患者が發生した場合には、仕方なくデフテリヤ治療血清を他の健康な子供に注射して豫防したりしたものですが、これは極く一時的效果しかないものであります。間もなくデフテリヤを豫防出来ない元々通りの體になるのであります。それのみならず一度此の治療血清なる馬血清を注射された人は、馬血清に對して過敏になりますから、後

日デフテリヤに罹つた場合、再び此のデフテリヤ治療血清の注射を受ける際には、先に注射されてあるこゝを豫め醫師に話さなければなりません。さうしません云ふ過敏症の爲に愛兒の不慮の死を招く事が無いことを限らないのであります。然し一應醫師に其事を断つてさへおかれゝば醫師は萬全の策を講じて過敏症の發生を防ぎ無事に血清注射を済ませる事が出来ます、けれどもさう云ふ場合には治療をうけたる患兒の親は勿論、治療の任に當る醫師も何とも云へぬいやな思ひを致さなければならないのであります。

それで私は單に豫防の目的等で以前にデフテリヤの血清注射を受けたこゝのある子供を持たれる親達には、親の責務としてでも此のデフテリヤアナトキン豫防注射を、お子さん方に施されてデフテリヤを一步もお子さん方の體に寄せつけない様になされんことを、切にお薦めいたしたいと思つて居る次第であります。

訓練の結果とは云へ、治療臺に平然と腰かけ、注射の針に恐れ氣もなく見入る子供の様子には、別な意味で、いたいけない或ものを感じさせられます。餘りにも不自然なものよりも強制的な云ふ人の聲が耳を掠めないであります。自然はその環境の實驗室ではあり得ませんけれども、保育の自然性を私達はもつて近代的に意味づけたいと思ひます。自然はその環境の生活の上に基調を置いてこそ、眞の意味を有つものではないでせうか。子供の生活を眞に生活せしむる爲めには、周到な用意の下に置かれた自然の中でなければなりません。幼稚園はその綜合的統一性と同時に、文化的個性をも有たなければなりません。この意味に於て、その時その場所の環境に順應し、更に之を啓發するところに、保育の意味があるのではないでせうか。

心なき眼に、不自然とも、強制的とも見えるかゝる衛生的準備も、幼児の理想的な生活の上に、強制や干渉ではなくして、實は自然的開發に處する注意と保護でなければなりませんと思ひます。

三學期の保育

檜山京

三學期といへば一月から三月まで、その一月もはじめ一週間は休みで丁度幼稚園の始まる頃から一月の半頃まで此學期の大半は一年中の寒さの頂上です。

惠き力をいたしました。かような次第で他の一、二學期ともさうではありますか特に此學期はまづ幼兒の身體方面に特に消極的積極的に留意致します。

春から夏秋へかけて幼兒の健康の爲めには出来るだけ注意して、紫外線に恵まれぬ都會生活の子等故郊外へつれ出す事にも努力し、園では室外保育も奨励し、暑い頃から涼しくなるまで裸足にしたり、うす着をすゝめ上着をぬがせ、日光浴空氣浴と様々につきめでは居りますが何しろ寒暑の變化を六、七回しか経験しない身體的抵抗力の少ない幼兒の事故ちき寒さに冒され易く、風邪をひく、咽喉が腫れる、咳が出る、そして氣管枝加答兒や肺炎を起す等一年を通じて最も病氣缺席の多い時であります。それ故本誌十二月號にお載せ下さつた「冬季に於ける託児所保育」「衛生訓練」就て「冬期の保育衛生」等諸先生方のお話は私共に大に智

お母様と協力して皮膚の摩擦(乾布又は濕布し家庭で)をし保護者の希望に依て毎日肝油を服用させ(希望者だけ)一日一回以上含嗽をさせます(食鹽と重曹を微温湯に交ぜ溶かした液で)なほ外出から歸つた時は家庭でも含嗽をするようにお母様の方にすゝめます(冬をひかへた第二學期の保護者會の時以前以てこの事をお話致して置きました)又幼兒自身にも出来る丈口を閉ぢて鼻でいきを吸ふように、外を歩く時はなほの事故、歸り際などに時々注意をし、これも皮膚の一部分ですが、手の凍傷を防ぐため朝早く冷たい手をしてちゞかんで來た時なご代りくに手を握つたり自分で自分の手をこするようにさせます。この際序

に長い爪は切つたり汚れた手は洗はせたりします。かやうにして一方寒さの豫防をすると同時に年長の組では、ここに身體の壯健な者には多少鍛練的に廣い運動場で走りまわる事(この時もなるべく口を閉ぢるやうに鼻でいきを吸ふ事を注意します)つなひき、繩こび、まりなげを奨励します。風あけも風につられて思はず常に元氣のないやうな子までが走りまわつて熱い／＼ミいふ位でよい運動なのですが運動場の立木にひつかゝつてしまふ事が多く、場所の爲に少し躊躇して居ますが場所さへよければ年長の男児には是非奨励したい冬の遊びでありよい運動です。けれども幼児の風あけは引き風ですからあんまり風が強いとめんくらつてよくひつぱれません。此頃は風の少ない温い日、雪を頂く遠い山々、お菓子の様な眞白な富士山をはるかに眺めながらさへぎる物のない廣い屋上で各組五つゞある風を男児達で代り／＼に引ぱりまわして居ます。勿論保姆は一人必ずそばに居ります。なほ年長年少の差別なく晴天の日には朝日のよくあたる運動場で鬼ごっこ、かけっこ、紅白のボール投げ等の競争も致します。近頃は年長の男児同志小學

校の兄様達をまねてキックボール、ゴロベース等いふ遊びをし、野球の様に點數を記入し1對3とか2對6とか數に對する興味を蹴る、打つ、走るといふ運動の愉快さを相俟て、「明日又しやうね」と毎日のようにつけられてゐます。かうして一方に戸外遊びを奨励すると同時に室内の温度をあまり温すぎない様に、長く出入口や高い窓まで大切にする事のない様に注意致します。朝早くは夜中冷えた校舎へステームがまわつて煖める時故、室を切りますが、幼児が登園しはじめる午前九時頃からは、出入口の戸が大方開いてゐますし十時頃から先お天氣のよい風のない日なら、陽あたりのよい外に面した窓を開けます風が強かつたり兩天なぎの時は廊下の方の高い窓を開け又毎日食事後の室内掃除の時は必ず外に面した窓を充分開き(但し幼児の身體のきこかに直接すき、ま風の當る事は必ず注意して)一月十日頃は室内温度がC氏九度前後一月末の最寒い頃で六度前後の温度にし室内のみあまり煖かに過ぎない様留意します。

登園の時間が此の學期は午前九時半故晝食も十一時半か

ら十二時近くにし、御飯は朝来るこすぐ、さめない程度の保溫戸棚（あらい金網の棚が四段あつて、下に土の火入れ二個に炭火又はたきんを入れ置く木の戸棚）へ入れます。常からまごとの好きな女兒が此の頃は人形中心の遊びが盛で午前も午後も「さつきのつづきしましやう」「またあしたもね」友達同志云ひかわして楽しんでゐる位です。同じ飯事には入つても男兒はお父さんになつたり、飼犬になつてお使に行つたり、はひまわつたりして「熱いから上着ぬいでもいい」といふ位ですが御馳走をきどりお人形の着物のきせかえで身體が熱くなる程の活動はなく從つて男兒に比べて、運動不足になる傾があるので子供達の大好きなスキップやラヂオ體操をさせ羽根つき風船つき、なわこび（こ）れは年少組には二つ以上つづけて飛べる者が少なく、年長組にもよく續けて飛べる者と飛べないものがあります。続けてこべる様になれば「また明日も」といふ程面白くなり全員の運動でよいと思はれます。がスキップ程誰でもするといふわけに行きません）を獎勵致します。なほ消極的には風の吹きさらす寒い所で遊ぶのを禁じて居ります。（幼い兒達は

どういふ物か成人だつたら五分も其處にぢつとしてゐたら手の先が感じの無くなる程冷たくなる、風の吹き通す場所に、鼻の頭を赤くして、ねずみの様な冷たい手をして、しかも平氣でおは入りなさいと呼ばなければ何時までも其處で遊ばふとしてゐます。これは他でも經驗した事ですが、もし發育の終つた成人と發育盛りの幼兒との身體の違ひで、今迄の禁止法以外に保姆の立場としてする方法があるかどうか、小兒衛生専門の先生の御意見を伺ひ度いと思つて居ます。

以上は主として身體的方面の事でございますが、全園児又は組全體が同じ目的に向つて作業したり、製作したりする年中行事又は協同遊びとか社會遊びとかいふものを舉けます。一月に郵便ごつこ、すつこ以前は新年會など試みた事もありましたが、松の内七日間に充分お正月を樂しんだ幼兒に更に新年會の興味はうすかつたので廢しました。二月に豆まき、梅の節句、紀元節、三月に桃の節句、卒業祝（おわかれ）の會、動物園ごつこ、人形店等があります。毎月の誕生日祝（お誕生會）も此學期から年少組が主催にな

つてお客様を迎へます。

自分で自分の事をする事が、せいいっぱいだった年少兒が追々多數のお友達と一緒にする事になれて来て、お客様を迎へるのはどんなにうれしい事でせう、招かれてお客様になるお兄様、お姉様達の喜は勿論です。

郵便ごつこ、まづ繪はがき、はがき、封筒(横縦各種)、便箋、切手(三錢切手、一錢五厘切手)を各自に作り(切りぬきのりつけ、模様塗り又は芋型押しで約十日間)それを集めて賣ります、お金は一錢を六つづく作り(幼兒の希望で穴のある五錢も作る)各自が自作のがま口に六錢づゝ入れ足りないのは後から足りないだけ入れて賣買をします赤塗のボスト一つ保母と幼兒の協合作で廊下に立て、各組の受けボストも同様にして作り室の出入口に取りつけます、集配人のかばんも協合作で出来、午前は誰、午後は誰明日は誰と男兒は代り／＼に配達人になります、左の肩に切手をはる事、あて名と差出人の氏名の書き場所、文句。(此言葉は幼兒間に通用しません、實際の文句たゞへば「オメデトウ」さか「オカゼハイカ」「デスカ」とか云つて)の書く場所を説明しま

す。年賀状以外實際手紙のやりとりの経験をあまり持たない多くの幼兒は、この文句の内容に困る事がありますが、返信の時には「アリガトウ」いふ言葉があるのでそんなに困らない様子です、字のかける、かけないの多少、あそび友達のいろいろに依つて、たくさん手紙を出す者、受ける者少しも受けない等の差が出て来ますので保母も通信の來ないらしい處へ出します。そして返信かきがはじまるので皆の遊びになります、自分の組のお友達、年少い組へ、年長組へ、さ追々通信が繁くなるにつれて興味が増し朝来るこそぐ自分の「狀さし」を見て、「來た／＼返事が來た」とまたそれに返事を書いて居ます。狀差しはやつぱり自作で、達人がわかりよい様に名前を自書してあります。一つの組に衝立式の郵便局が出來、其處では集つて來た書信に切手のある無しを調べて、切手のあるのにスタンプを押し、更に受け箱へ配ります。集配人は各組から出ますから三人位づく居るわけです。長く病氣で休んで居るお友達にほんとうに手紙を出したり、自分の家の所番地をはつきり知つたり、お友達の名がたくさんある事がわかつたりしました。

そして殆ど一月中の續いた遊びになりました。

節分は豆まきといふ事實、その準備として鬼や福の方面を作つたり糉を作つたり、豆まきのお話、唱歌、遊戲等で前の準備に三、四日も費すだけ後まで遊びの發展する行事ではありません。梅の節句は童話、歴史話、神話が中心で唱歌や觀察、製作が少し加はります。桃の節句は大體が製作中心で、前以ての準備が各自の製作にもなり協同の製作にもなります。人形店はこの行事に續くつもりで、これ以前にやはり製作中心で致しますが、賣買といふ事があるので男女共に興味を持ちます。桃の節句の當日は女兒を主人役にするので、女兒の作業を申しますか、する事が中心の様になりますが、皆で唱歌や遊戲を代り／＼に致しますから、女兒のみの興味中心にはなりません。卒業お祝（お別れの會）は年少組の前以ての製作や當日の作業が中心になり祝はれる（送られる）子供の遊びや唱歌遊戲も映畫もあつて、年長組の最後の幼児生活を存分に楽しくすごすのを目的とします。動物園ごつこは必ずこの學期に限るわけでなく二學期で出來ますが、製作、中心で文字も出て來ま

すから時間があればこの學期の方が觀察や製作、遊びがいろいろに發展する事が出來ます。

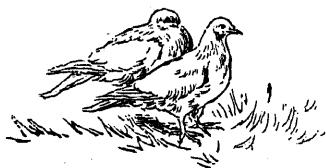
節分以後の遊びについては具體的に記しませんが、大ざつぱに走り書きをしてまゐりましたが、この學期になりましたて、年賀状とかお正月の休み中の「かるた」「すご六」の影響でもありますか、殊に年長兒は讀字欲が驚く程盛になります、それで食事の準備當番、唱歌の歌詞、仕事の役割とか其他の用事を言葉で傳へる同様片假名で掲示致します、「イロハかるた」も様々の種類を削へて置き、子供同志で読み取りをしたり保母も入つて取り札を何枚？と聞いたらします、毬、羽根、風船をつく事に依て、第一には一つ年が増えていくつになつた云ふ事に依て文字よりは後れる様ですが數へる事にも興味を持つて來ます。それでは遊戯の時にも二人づゝ三か三人づゝ三か、二番目三番目とか又赤白に分れた番号を云つて人數を同じにするとかいふ事が幼兒達に望ましい、楽しい事になつて來ます。運動の處で記しましたキックボールの點數を野球の表の様に数字で記入してゐるのを見うけます。（尤もこれは小部分の幼

兒ですが

特に小學校に入る準備を云ふではありませんが、身心の發達が正常でないようと思はれる時又特別な學校へ検定を受けに行く事がわかつてゐる時には區兒童相談所の心理係の方に智能検査をしていただきます。又小學校に入つて常識的に不便を感じない爲めに左右、前後、上下、横縱向、こつち(手前)斜等日常生活に必要な言葉と實際を、自分で見分け聞き分けの出来る様にさせます。畫を描いた時、製作をした時、自分で氏名又は名だけ或は姓だけ書かせる事に依つて自分の名は口でも云へ片假名(漢字で理解出来る)は少數)ならば読みも書きも出来るようになります。但し書くといふだけで幼兒は○や□を描くと同じ心算で書いてゐますから、書き方の指導はしてありません。

なほ身體方面で壯健な年長兒の爲めに丁度よい降雪があれば雪合戦、雪だるまを保母も一緒に致しますがこれは、土地がぬれてゐたり、折角積つても溶けはじめたりするので出来ないので、出来る年ごとあります。此の間の二十二日の雪がもう一晩おそらく降つたら月曜日の午前

に、雪の中で遊ばせられたのに、雪合戦をしたがる子供と同じやうに、溶け行く運動場の雪を私共も残念がつて眺めました。何處の園でもなさつていらつしやる事を、ここでさら立て貴重な紙面を費しました事をおわび申上げます。たゞありのまゝを述べて皆様の御教示をあふぎ度いと思ひます。



小學校入學前一ヶ月間の保育

東京市京橋昭和幼稚園 白根美智子

小學校入學前一ヶ月間の保育を申します。先づ小學校で幼稚園との連絡をどうするかといふ事が、最も大切な問題だと思ひます。勿論もう長い経験をお重ねになりました方は、御詔々に適當に解決なさいまして最善の方法をおこりになつていらつしやいます事を存じますけれど、始めて學齡前の子供をお持ちになりました方、又は私立幼稚園の方で平素直接小學校との關係がございません爲にあまりこういふ問題をお考へになつていらつしやいません方々には或は何かの御参考にもならうかと、自分の浅い経験をも顧み、筆をこりました様な次第でございます。でも僅か一年の経験でござりますから或は大層誤った觀方考へ方をしてゐるかも知れません。その節は御指導仰けましたら幸に存じます。

近時幼兒教育がこみに盛になりまして、都會の市立小學

校には競つて附屬幼稚園が設けられ、小學校でも修業主義の生活主義色々研究されてゐる様で誠に喜ばしう存じますが、實際には極めて少數の小學校を除いてはまだ／＼昔の儘の教授方法が多いのではないかと思はれます。こう申しましては小學校からお叱りを受ける事も存じますが、切角幼稚園で一年なり二年なりを無理なく伸ばして参りましたものを、幼稚園の課程を全然踏まない子供達と一緒にして、「よそみをしないで」「手は膝の上に」式に扱はれる事を思ひます。僕もう本を買つたんだよ」と喜ぶ様を見ますのが淋しい氣がして堪りませんでした。望み得るなら、そして容れられる事なら少くとも三年生迄は、それが駄目ならせめて一年生の間だけは幼稚園と同じ生活をさせていただきたい、でもそれすら叶はない事から、幼稚園にゐる間に出来るだけ順應した生活を経験させ、幼稚園と小學校との

兩方から歩み寄つて、恰度眠つた赤ん坊を母の手からソーソーと軽らかい臥戸に移す様に幼児の純真な魂をおびやかす事のない様にしなければならないと思ひまして、校長（園長兼任）にも度々お願ひをして御理解いたゞき。昨年は對外的な色々な問題を押し切つて一學年三組の中一組を幼稚園學級として、幼稚園から行つたものだけを一組にしていたゞきました。それを大層御熱心な先生がお持ち下さいましたので、私達みんなに喜び安心して送り出したか知れませんでした。それから一年間絶えず連絡をとりまして一人一人に就いて話し合ひます外、時々授業を參觀させていたゞき、じつミその成育、變化を見つめて參りました。一年たちました今日ではかなりはつきり結果が現はれて参りました、唱歌・圖畫・手工などは他の二組とは設違ひで、幼稚園組は今の一学年と同じ程度、或はそれ以上に進んでゐるさうでござりますし、學科の成績も一般によく、特に發表觀察の方面がすぐれてゐるこのお話で、それは勿論幼稚園に入れる程の御家庭は相當教育に熱心だからでもございませうけれども、兎に角幼稚園保育の力だゞ大いに自信をつけた様なわ

けでございますが、最初の一學期は團體生活に必要な自己中心主義ならざる事、整理整頓、後始末よき事、なごの長所はあつても、隨分お困りになつた事が、むしろお困りになつた事の方が、多かつた様でございました。今それらを述べ、本年はこうしたいと思つて居ります事を少し申上げます。

先づ第一に始業終業のベル又は鐘に對して全然無関心であるこゝ。これには隨分お困りになつた様でございました。私の園の様に名前は附屬幼稚園でなくとも、小學校の校舎の一部を借りて居ります、自然學校の始業終業のベルが聞えて参ります。入園當初は、けたゞましいベルに驚いて何をして遊んでゐても反對的に驅け出して私共の所へ集つたものでござりますが、いつか慣れて、それも自分達の生活に關係のない事を知ります、みんなにけたゞましく鳴り響きましても耳にいられない様でございました。

その習慣がしみこんでゐて、始まりのベルがなつても平氣でしたい事をして遊んでゐる、先生がお部屋へおはいりになると、僅か數人の子供しかゐない、大騒ぎで校内をあち

こちら驅け廻つて呼んでお歩きになる。そんな事が随分長く續いた様でございました。時には先生がお氣付きにならなければ一時間遊んで、終る頃ヒヨッコリはいつてきたりする事も珍らしくなかつたさうでございます。

これなご幼稚園で小學校入學の前一ヶ月位の間に一週一度でも二度でも、小學校のベルをもゝして、例へばおはなしの躰んだあこで「今は小學校の方達もみんな遊んでいらっしゃいますけれど、今度ベルがなるごお部屋へはいつて勉強なさいます。皆さんももうじき小學校ですから、今日は同じ様にベルがなつたらお廊下に並んでお遊戯室に行つて、又今度ベルがなる迄レコードを聽いたり、歌つたり、お遊戯したりしませう」。こいふ風に扱ひましたなら、或は却て喜んでし、無意識の中にベルで始まりベルで終る生活を了解する事が出來、小學校へあがつてから一度二度の御注意で容易に、そして自然にその習慣に溶けこんでゆけるのではないかと思ひます。

第一は自分の仕事が済むごサッサ遊びに出る事。

これは前の問題よりもつこお困りになつた様でございま

す。幼稚園ではおしゃが早く出来た兒から遊びに出来ますのでそれを少しもいけないことは思はず、小學校へあがりましても算術や書取其他何でも自分さへ出来ればお意張りで「先生もう遊んで来ていいでせう」と云つてぎんぐ遊びに出てしまふのださうでございます。それに就きましては小學校の先生も「早く出来たものには何からかがつた仕事が與へられる様にもう一部屋あるか又はグループ制度に出来る」といゝのだけれど、又そんな時はさんぐ遊びに出したいけれど他の組との關係もあり、又校内のきまりもあつて「ご冗談になりました。同じ事をさせましても或子供は十分で完全にし終へ、或子供は三十分四十分もかゝつて出来上らない事は多うござります。それを早く出来たものはたゞ待たせて置く、しかも、おしゃべりをしてはいけません。まだしてゐる人の邪魔をしてはいけません。誰です鼻紙を出していたづらをしてゐる人は、等々と云はれるのではほんとうに可愛さうでございます。是は小學校の先生の教授手腕に恃む外致し方ない様に思はれますけれど、時には幼稚園でもあまり無理でない程度に足並を揃へ、早い人はお

そい人の邪魔にならぬ様に静かに待つて進む様に指導する
必要がありはしないかと思ひます。けれどもこれは小學校
に幼稚園生活を知つていたゞく様に幼稚園が努力し、向ふ
から歩みよつていたゞかなければならぬ問題でございま
せう。

第三はグループ生活の習慣からぬけられない事。

小學校ではグループ制度にしたいと思ひになります
も教室や人數の關係で實行が困難な様でござります。小學校
は小學校、幼稚園は幼稚園、幼稚園に居る間はそんな事
迄する必要はない云へばそれまでござりますけれど、
少くとも入學前の一ヶ月二ヶ月の間に、たまには小學校式
に扱つて見てもいいのではございませんでせうか。私の方
の園では一人掛の机、四人掛の机、八人掛の机三種類作り
ましたで、無理のない機會を捕へては、あながち黒板の方
を向かなくとも時には窓邊の鉢植の方へ、時にはお部屋
の隅の戸棚の上の玩具の方へ皆向かせてして居りますが、
こうしておきましたら、小學校へはいつて今迄のグループ
制度からいきなり皆前向け制度になりましても、急激な變

化の爲受ける刺戟が餘程ちがひはしないかと思ひます。
もう一つ、さうも幼稚園から來た子供は、先生を甘く見て、云ふ事をきかなくて困る云いふ様な事を仰言います方
があるやうでございますが、それが事實なら保姆の大きなか
恥だと思ひます。多數の父兄の中には、親心を許さうには
あまりに得手勝手過ぎると思はれる様な人也有つて、當然
自分の子供が悪くとも叱られるのを喜ばないで何彼を面倒
な事を云はれる事もありますけれど、そんな父兄におもね
て、又ははきちがへた自由主義から、幼児がざんに間違
つた事をしても大目に見、躊躇申しませうか德育方面を
軽んじた結果幼稚園の先生を召使同様に考へる子供を作り
上げてしまふ事になるのでござります。保姆は或時には何
十人かの子供達のお母様であり、お姉さんであり、親しい
叔母さんであり、或時は仲のよいお友達でなくてはならぬ
事は云ふ迄もありませんけれど、「もうこんな事するの止め
ませうね」こそつこ膝に抱いて云つた時、すぐきいて呉れる
様な力は持つてゐなければいけないと思ひます。か云つて急に怖い顔をしたのでは切角の今迄の保育が零になつて

しまひますけれど、そしてこんな事は僅かの間にしたつてうまくいきはしないのですけれど、一人でも「いやだい」と云ふ様な子供をお持ちの方は、せめて此の二月三月はその方面に力をおいでになつたら存じます。

次にこれは直接幼児の保育に關係はございませんけれど保母の仕事として、

一、あらゆる機會にあらゆる方法で、積極的に小學校の先生方に幼稚園を理解していただく様に努める事。

二、此方からも、許される限り參觀をしたりお話を伺つ

たりして小學校生活を知る事。

三、園児の心身の發育状況、性情、家庭の事情等を出來るだけくわしく、小學校に御報告申上げる事。

等を怠つてはならないと思ひます。

私の園が小學校に附屬して居ります爲に、今迄申述べた事が大層偏してゐて一般性がない様にお思ひになるかも知れませんけれど、私は公立も私立も皆同じだと思ふのでございます。

「自分の幼稚園は少しも小學校と關係、連絡がありませ

んから、まさか後は野になれ山になれと思ふわけではありませんけれど、私達の力ではさうにも出来ませんので、幼稚園は幼稚園で幼稚園に居る間を理想的に保育してゆくより仕方がありません」。

この澄ましてばかりはないで、自分の子供なり弟妹なりの受持の先生を訪ねて御注意を伺ふのと同じ氣持で、育てた子供達のゆくべき學校を訪ね積極的に連絡をとつて行つたら如何でございませう。そこ迄行つてこそ始めて幼稚園の保育を完全に生かしたものと云へるのではないかと思ひます。

遠い理想かも知れませんけれど、幼稚園が力を合せて真剣にぶつかつてゆきました時、今の小學校低學年教育が次第に形をかへてゆくのではないかと、私は思つて居ります。

冬期の保育衛生（其の三）

醫學博士 廣瀬興

脈搏

脈搏の搏動變化は、熱と共に各種の疾病的診断上、或は

その病の輕重の判断等に重要であつて、家庭にあつてその知識を修得し置くことは大切なことがある。

脈搏は身體表在動脈が心臓收縮運動に依つて血流が波動傳達されて、週期的に隆起する即ち搏動を斯く唱ふるので

あつて、古來最も觸知し易い橈骨動脈を觸診するのを常とするのである。脈搏を触診するには右手の示指及中指（或は三指）を軽く橈骨動脈の（下圖のP）に貼し、強く壓迫せしめて、其部の搏動の（一）度數（二）調節（三）性狀の三つを検査するのである。

脈搏の度數は一分間平均七〇乃至七六を生理と云はれてゐるが年齢、性、身長、飲食、運動、精神の興奮によつて

も差異がある。殊に初生兒、乳兒は不定で僅少のことのが影響するものである。右に年齢によつての生理的差異を擧れば（附・呼吸數の年齢差）。

	一分間脈搏數		呼吸數
初生兒	一二〇	一四〇	四〇—四五
乳兒	一一〇		三〇
二—三歳	一一〇		二五
五歳	一〇〇		二〇
大人	八〇—九〇		一八
	六〇—八〇		一六

熱性病、心臓瓣膜病、心臓機能神經症（例へばバセドウ氏病）の時には脈搏頻數となるが普通である、然るに腸チフスの場合は、熱に比して脈搏數の僅少なるが特徴である。

肥満のための脂肪心、高齢、高度の餓饑、黃疸、急性關

節リュマチス、鉛アルコール中毒等の時、選脈を來すゝりがある。

脈搏の調節、平常は同週期を以つて速調なるべかに時に

大小不同の搏動をなすゝり(不整脈)、或は一二休歇して一時脈搏を觸れなくゝりがある(結代脈)。又、動脈瘤を患るときは左右の脈搏が不同時に來るゝりもある。

脈搏の性狀、硬く或は軟く微弱に觸れるゝりあり、心臟左室肥大(硬)、心臟機能の衰弱(軟)の時の如し。

血壓 血管の性狀、伸展性の如何、病的變化によつて傳達せらるゝ血流の壓力を異するものであるから、その血壓によつて血管の健不健を判断するゝ事が出来る。生理的にも年齢に依つて異なる。

最大血壓 最小血壓(耗)

一歳	七五乃至八〇	六〇
六歳	八五乃至九〇	六五
一〇乃至一一歳	一〇〇	

生理的血壓を知る公式によつて簡単に知るゝ事が出來る。

$$(1) \quad 80 + 2 - x = B.D$$

$$(B.D \text{ は幼児の所要の血壓 } x \text{ は年齢 } 80 \text{ は乳兒の血壓})$$

$$(2) \quad (1) \quad 120 + \frac{x - 20}{2} = B.D \quad (\text{男子})$$

$$(2) \quad (2) \quad 120 + \frac{x - 20}{2} - 10 = B.D \quad (\text{女子})$$

但し、血壓は小兒に於ては餘り診斷の助けとなる場合は少い且つ測定し難い。

呼吸

呼吸も生理的に年齢等に依つて差異(前述の表参照)があるが呼吸器病殊に肺炎の如きは頻數となり困難となる。肺の呼吸面が小くなり酸素吸收量少くなるため頻數となるのであつて酸素吸入其他で酸素不足を防止するのである。死の直前によく觀るシャイニストークス氏呼吸現象といふのは初めは極めて淺く漸次其深さを増し速度も加り遂に著しい呼吸困難の状を呈し復た漸次呼吸淺表となり終に全く歇止し、十乃至三十秒の休歇時を置き、又初めの如く淺く逐次深く速か次て休止を繰返す如き呼吸であつて最も危

險の徵である。然るに乳兒に於ては睡眠時に應々生理的に斯の如き呼吸を營むこあり。

以上熱、脈搏、呼吸に就いて述べたれどもこの三者は皆な疾病の一の症狀として變調を來すものであつてこれをよく注意するこきは疾病の初期を判断し、又経過の如何を豫想し看護に萬善を盡すこが出來よう。

咳 嘽

咳嗽(せき)も又冬期に多い呼吸器病の一徵候である。單に輕い咳嗽のみで熱を併發せぬ場合は單純の感冒、扁桃腺腫脹の程度であるが、熱を併ふこきは特に注意して、重症の初期症狀ではないかを警戒せねばならない。この際、口腔検査を必ず行ふこみ肝要で、小兒は平素より口腔を保護者に見させる習慣を付けて置きたい。初め亂暴に或ひは舌壓への冷いもの、熱いもの等で小兒に不安を與へぬ様にすべきである。咽喉にルゴールを塗布するにも金屬製の綿棒より杉箸を、舌壓子も木製のものがよい。

口腔検査によつて知り得るこことは扁桃腺の肥大こそそれべ

白い苔状物又は斑點の附著してゐるや否、舌の表面の所謂舌苔の有無、その状況、兩頬部内面の黃白色粟粒状斑點の有無等である。熱があり扁桃腺に苔状物を見、咳嗽、特に犬吠様(犬の遠吠の如く吸氣の時に長く咽を鳴らして無理に呼吸をする)咳嗽をするこきはデフテリーを疑つて一刻も早く血清注射を受くべきである。血清注射は約二十四時経過せねば效果が現れて來ぬ故早い程良い。若し效の現出せぬ中、呼吸困難を來す様なれば氣管插管法か氣管切開法を行はねばならない。前者は小さい金属製の管を口腔より喉頭内に插入して一時氣道を通せしめる法であるが専々實行困難である。後者は外部より外科手術的に氣管に孔を開くので療治後皮膚に瘢痕を殘すであらう。兩者とも出來得べくば避くべきである。又、近頃豫防ワクチンも效がある。是非幼兒には實施した方がよろしい。

頬部内面の粘膜に數個或は十數個の粟粒大の周圍に紅暈をめぐらす黃白斑點を見て輕度の熱を有すこき且つ未だ麻疹を経過せぬ小兒なれば殆んどこれは「麻疹」の初期であるこ断定してよい。次いで流涙、結膜炎、咳嗽、特有の皮

膚の紅疹を來す。即ち麻疹の早期診断の徵候である。これを「コブリック氏斑」云つてゐる。

又、舌面が猫の舌の如くザラ／＼し、イチゴの表面の状を呈し、扁桃腺腫脹し、咳嗽あり、顔面より漸次全身に紅斑を現出し、麻疹と異つて朱を一面に塗つた如くなる。これは「猩紅熱」である。この場合、口の周圍のみ青白に發疹を見ない皮膚を殘すのが特徴である。「猩紅熱の三角」云つてゐる。咳嗽が主として夜間に多く、粘稠の咳嗽を出し、連續的傾向があり、次いで結膜充血を來す様なれば、多くは「百日咳」である。百日咳の注意は一度は豫防注射して見る事。咳のため嘔吐をする故、必ず食事を再び食せしめて栄養不良にせぬこと。日光浴をさせ且つ衣服を度々、日光に曝すこと。熱のないものは入浴其他特に清潔にしてやることです。栄養に注意せぬときは恢復が遅れ、發育不良の原因となり、又、結核等の續發症を起し易い。

熱、咳嗽の手當

熱は三十七度五分位なれば冷水タオルを額部にあて、三十八度以上なれば氷嚢水枕がよい。よく幼児に氷枕をあて

るに小さいため頸から背までねらせてゐることを見るが注意すべきである。氷嚢の中に氷を細く碎きて入れ、空氣を入れぬ様にする。溶けることが遅い。心臓を冷すときは卵形の小さい氷嚢を左乳房下にあてるのであるが、餘程注意せぬこ胸全體を冷す恐れがある。

濕布は氣管枝カタルの徵候のあるとき行ふべき一つのよい手當であるが温湯の濕布が普通である。アンチフローデスチン、エキホス等の泥状濕布もあるが乾燥して胸部を緊迫する事があるから注意し、断片的に占布すること。低熱のときは便である。高熱のときは普通の硼酸水濕布、キソール液の濕布の方がよいことがある。カラシ濕布は肺炎の時多く用ひられる手當であるが西洋カラシ、日本カラシを温湯にて泥状に溶き、フランチル等の布に厚くのし、その上に日本紙をかぶせ、その日本紙の方を皮膚にあたる様張るのである。數分の後、皮膚の發赤を待つてカラシが皮膚に附著せぬ様にこつて後、普通の温濕布を行ふのがよい。

一日二回以下が普通である。

吸入も咳の多いときは吸入薬としては普通

は二%硼酸水、二%重曹水等である。鼻カタル、咽喉カタル其他で刺戟性の咳に苦しめられたときは次の處方の吸入が効がある。その中のアドレナリンが効くのであらう。

處方 重曹 四〇

食鹽 一〇

グリセリン 八〇

鹽化アドレナリン 十滴

水 四〇〇〇

右吸入料

吸入は一日三四回を行ふこゝ、乳幼児にて餘り嫌つて暴

れる様のときは睡眠中横の方より、蒸氣を細く出して長く

行ふもよい。

室の乾燥を防ぐため湯氣を立てる習慣があるが餘り室内

の湿度を高めるは一般衛生上、宜しくない事がある。湿度に

就いては既に述べたが無風の時は濕球寒暖計華氏五十六度

が快感點であり、若し同六十五度に上昇したなら五百呎の

風速がなければならないのである。此點よく注意して過度

に湿度を高めぬ様にせねばならぬ。(冬の保育衛生の項終り)

原稿募集

題目『保母の初経験を語る』

若い方々の新鮮な御感想を奮つて御寄稿

下さい。

締切 三月十五日迄

宛名

東京市小石川區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會編輯部

桃の花二種

及川ふみ

菱皿

このお皿はお節句に飾つたお雛様のお皿にもなりますが幼児たちにわたるお菓子の入箱によいと思ひます。

一、萌黄色のラシャ紙に第一圖の様に形をきつて、菱皿をつくる。

屏風

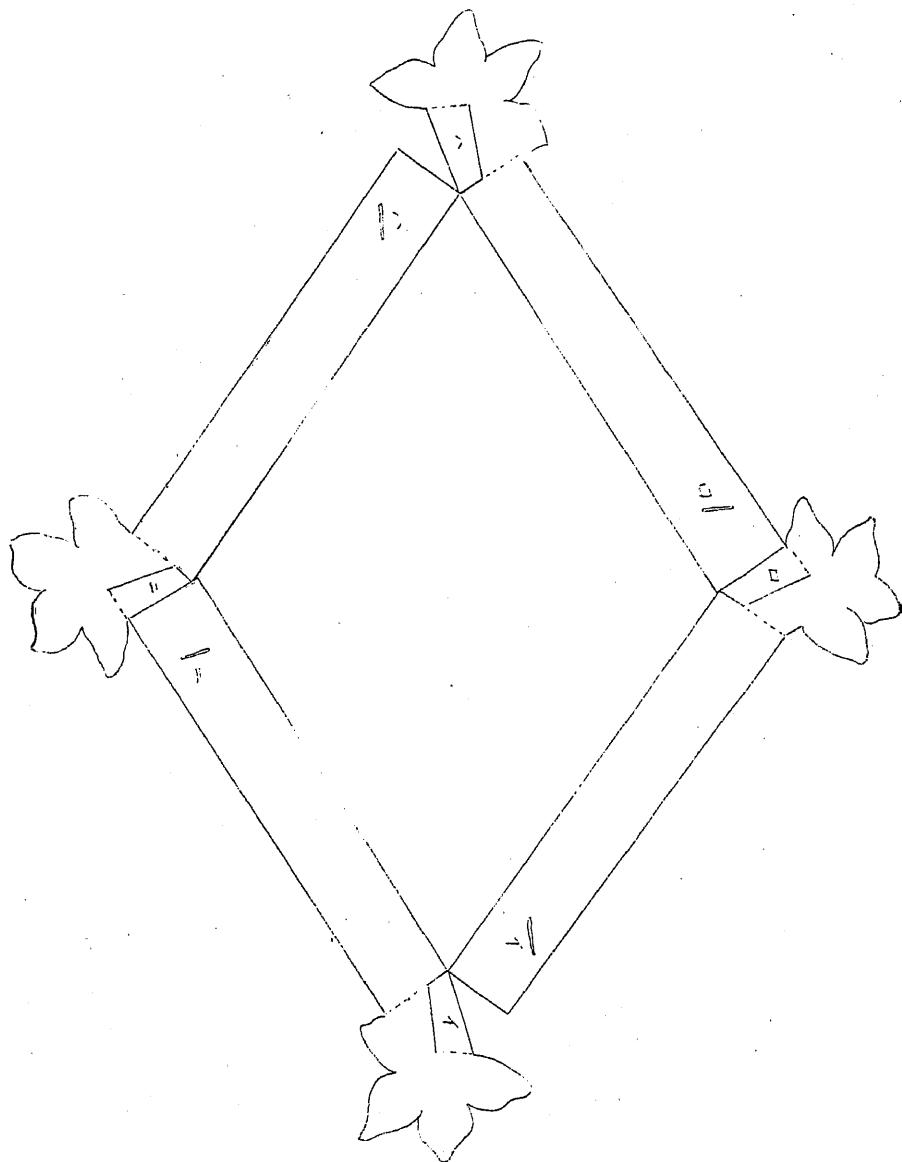
イの部分は同じ符合のイの中にさしこむ、ロハニの符號もそれぐぐ同じ様にする。桃色の伊豫粧が模造で桃の花の形を任意にきりぬきて箱の周圍に適當にはりつける。

一、畫用紙八ツ切に第三圖の様に臘寫して、太い幹は茶色に、細い枝はみざりに、桃の花は桃色に、それぐぐ色をぬりて六曲の屏風にする。

二、畫用紙に第二圖の様に臘寫しておいて桃の花を桃色に、しぶは黄色か茶色に、地色はみざり色にぬる。
にして屏風にするのも亦一つのやり方であります。

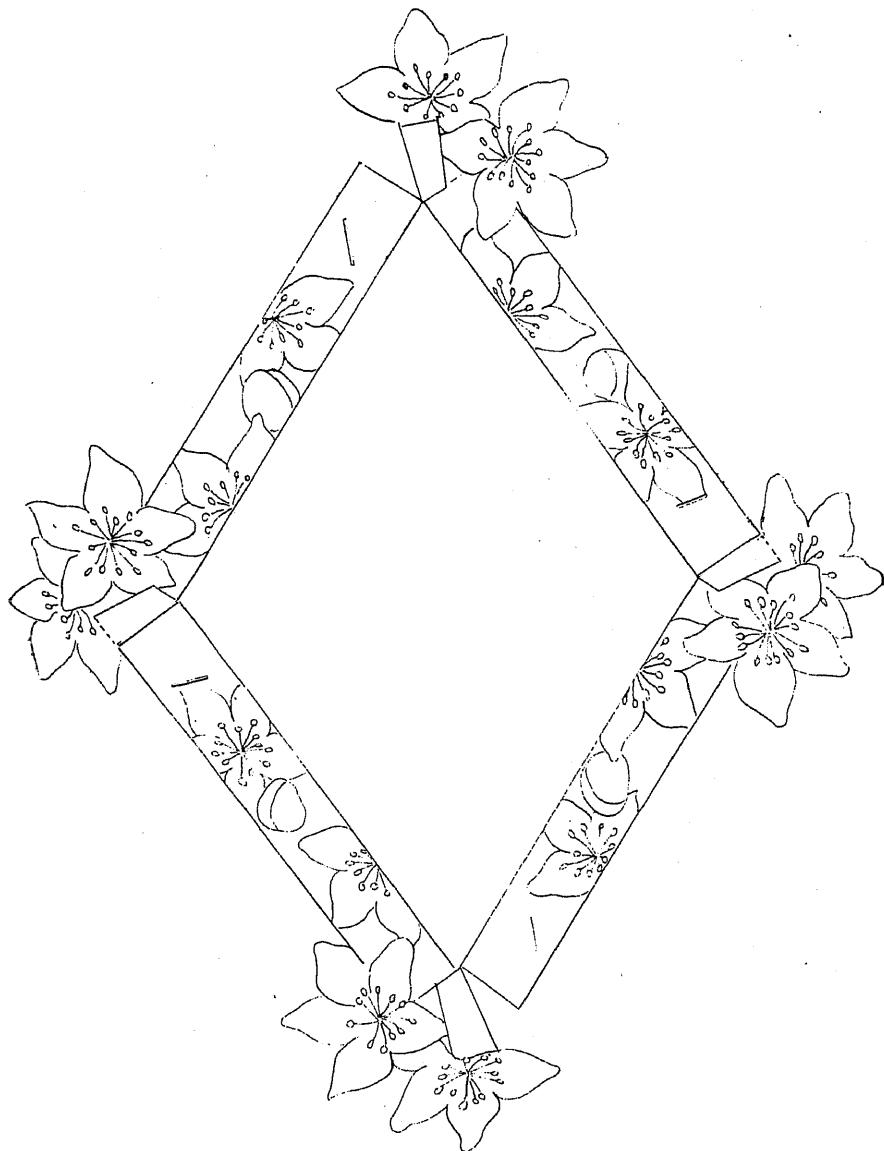
お皿の内部はみざり色の模造紙をはる。

第一圖



一四

圖二 第



四二

圖三 第



童話

かゝしなんかいやだね

高島

巖

ある二二二二、お父さん二二、おばあさん二二、子犬が住んでるました。

子犬のお名前は、兄さんの方をチリ、妹の方をボリ二云ひました。

チリ二ボリは、あんまりおりかうな兄妹ではありますんでした。

*

「う、……あーあ、また夜があけたぞ、おい、ボリ」「う、……あーら、また夜があけたわ、あら、チリ、もう起きてたの?」

「おい、なにをねほけてるんだい(僕が起してやつたんぢやないか」

「あら、さうぢやないわよ。あたし、自分で起きたのよ」

よくつて、それはいい氣持だよ」

「さうぢやないよ。僕が起してやつたんだよ」「あら、さうぢやないわよ。あたし、自分で起きたのよ」

「さうぢやないよ。僕が起してやつたんだよ」

「あら、さうぢやないわよ」

「さうぢやないわよ」

そ、へ、おばあさん犬が、前かけのはじで手を拭きながら、やつて來ました。

「これ、なんだね、朝からけんくわなんかして、しうのない子供たちだな。さあさ、早く起きて、お着物をきかへて、お顔をあらつて、おそこへ出てござらん。お天氣が

「僕が起してやつたんだい」

「あたしが起きたのよ」

「僕だよ」

「あたしよ」

「まだやつてるのね、この子たちは」

「僕だい」

「あたしよ」

「そんなこゝを云ひながら、でも、一人は着物をきかへに
かかりました。」

*

「おい、ボリ」

「なによ」

「今日もまた、いいお天氣のやうだから、さうかへ遊びに
行かうか」

「ええ、行きませう。ほら、原っぱの向ふの、あのお家を
建てるこゝろはがう~」

「うむ、さうだ、あそこへ行つて、木の切れっぱじや藁つ

くづで遊ばう」

「あがふよ、僕が起してやつたんだよ」

「ええ、ええ、それがいいわ、それがいいわ」「
チリミボリは、朝ごはんを済ませます」、早速、おそら
へ出しました。

*

チリは、青いお洋服に縞のジボン。

ボリは、赤いお洋服に格子のスカート。

「おい、ボリ。早く歩かなくちや駄目ぢやないか」

「歩いてるぢやないの」

「歩いてるつて、早く歩くんだよ」

「今、早くするわよ」

「なんでも、おそいやつだなあ」

「あら、なんでもつて、なにがなんでもなの?」

「わいぢやないか、けさのこゝり、もう忘れたのかい?」

「けさのこゝり~」

「けさは、僕が先に起きて、僕が起してやつたんだよ」

「あら、まだあんなこゝりを云つてるわ、あたし、自分で起

あたしよ」

「えッ? 七時? 隨分お寝坊だね」

「七時ぢや、おそいの?」

「えつね、おちさんなんか、五時に起きて六時には、もう

「こゝへ来て働いてるんだよ」

「くえ」

「お前たち、お家のお掃除を手傳つた? あるかい?」

「な、」

「かうし? 」

「そりやわ? お家のお掃除は、おばあさんがするもん

だもの」

「それぢや、朝起きてごはんまで、なにをしてゐるんだい

?」

「だまつて、立つて見てるわ」。

「へえ、それぢや、かかるみたいぢやないか?」

「えッ、かかし?」

「かうさ、なんにもしないで立つてるのは、かかるだよ」

「なんでもいいよ。おちさん、木づくづを少し呉れないと

「七時よ」

「やうぢやないわよ!」

「えうだよ」

「うやよ」

「ほんじだよ」

「そんなこゝを云つてゐるうや?」一人は、もう、原つぱ

の向ふの、お家を建ててるの? へやつて来ました。

*

「お早よ? おわかれ?」

「ああ、お早よ?」

「おちさん、大工さんだね」

「かうだよ、大工さんだよ」

「おちさん、よく働くねえ」

「そりやわ? お前たちみた? 」朝起きて? はんを食

べる? すぐ、お家のお手傳ひもせずに、こんなこゝへ? び出しへ來て、人のじ? やまなんかしないよ」

「あら、あら、あら、あら、じやまなんかしないわ」

「お前たち、けふ、何時に起きたい?」

「」

*

チリボリは、おひるじはんの時、ちよつこお家へ歸つた
きり、一日中、その仕事場で遊び通しました。

*

「しようのない子供たちだねえ、今頃まで、ちこでなにを
してゐるんだらうねえ。」

「ほんこうだよ。でもまあ、子供のこことだから仕方がない
よ、もう歸つて來るだらう。」

お家のなかには、もう電氣がついてゐました。お父さん

犬もおばあさん犬も、じはんが済んで、夜のお仕事にかか
ることころでした。

入口のこところで、「ドンドンドンドンドンドン」と、戸をたたく音がしますので、おばあ

さん犬。

「だれだい?、チリボリかい?」

「チリだよ」

「ボリよ」

「ほら、歸つて來ましたよ、お父さん」

「おばあさん、あけて」

「おばあさん、あけて頂戴」

「自分たちであけられないのかい?」

「あけられないんだよ」

「かうして?、お前たちに手がなくなつたのかい?」

「ううん、さうぢやないよ」

「持つて來たの」

「手があるんなら、自分たちであけて入つたらいいだら
う」。

「こころが、その手が駄目なんだよ、持つてゐるんで。
「なにを持つてゐるの」

「ひづつて、おばあさん犬が戸を開けますご、チリもボリ
も、兩わきに、木つづくや藁つづくを一杯かかへてゐます。
「まあ、そんなもの、ちこから持つて來たの」。

「ううん、これでお家をこしらへて遊ぶんだい」

チリボリは、その木つづくや藁つづくを、ばらばらいほ
しながら、入つて來ました。

「これこれ、折角お父さんがお掃除をしたばかりだのに、

叱られますよ。

「おい、チリボリ、かたづけなさい」

「うううう、お父さん犬に叱られてしましました。」

「はー」。

いやいや落した木つづく葉つづをひろひますい、チ

リ。

「おはあさん、僕、おなかがペコペコ」

「よしよし、今あげるよ」

「おはあさん、あたしも」

「おはあさん犬は、ふたりに「はんを食べさせる」と、すぐ

にお床の仕度をして、ふたりとも寝かせてしまひました。

「しようがないね、おはあさん。あの働きものの大工犬の

ところへでも少しあづけてみたらどうだらうね、あそこには

はよく働く子供たちがたくさんゐるからねえ」

「やもねえ、まだ子供だから、今に少しはよくなつて呉れ

るだらうよ、まあま、もう少しの辛棒だよ」

お父さん犬、おはあさん犬は、夜のお仕事をしながら、こんなおはなしをしてゐました。

*
なんだか、その邊がぱーっさあかるくなりました。

「おやあ、變だぞ。こんなあかるさ、僕、見たこないよ」

「あら、隨分綺麗な色ね、まるで紫色にお乳をミカしたや

うだわ」

「晝かしら、それこも夜かしら」

「ちつちでもないわ」

「そんなことを云ひながら、じいツミ見てるますい」、「ジン」

からごもなく、チヨン、チヨン、チヨン、チヨン、チヨン、チヨ

ン、チヨン、チヨン、チヨン、チヨン、丁度大工さんがお仕事を

してゐるやうな變な音がきこえて來ました。

するい、今までなんにもなかつたところへ、地面から、

ひよろひよろひよろツミ、棒が一本出て來ました。

「ああ、棒が生えて來たぞ」

「あら、あら、あら、あら、ふへて來るわ

」と思つて見てゐるうちに、その棒がなん本にもなん本に

もわかれ、こんきは、一本づつ、ふらふらと歩きはじめました。立つたり坐つたり横になつたり。そのうちに一軒

のお家が出来あがりました。

「ははあ、お家が出来たな」

「あら、不思議ね」

..

お家の真中に、大工のおちさんが眠つてゐました。

「おやおや、大工犬のおちさんだ」

「ええ、ええ、さうだわ、さうだわ」

「なほよく見てるます」、「こんぎは、そこから出て來たのか、小さな子犬がたくさん出て來て、ひきりがはうきでお部屋をはき出す」、「ひきりが水をくんで來て、ふき掃除をする」、「ひきりが薪を持つて來て火をつける」、「ひきりがその上にお米の入つたお釜をかけてごはんをこしらへる」、「ひきりがお膳を持つて來る」、「ひきりがお茶碗を持つて來てその上にのせる」。

こんな風で、すつかりお仕度が出来てしまふ、「こんぎはみんなで手をつないで、大工犬のおちさんのまわりをさりかこみました。

「一、二、三」

一番大きな子犬が號令をかけます。皆なが聲を揃へて「わあー」とさけびました。

びっくりして目をさました大工犬のおちさん。

「おい、びっくりするぢやないか、だれだ、ああ、お前た

ちが、また、みんなしてお手傳ひをして呉れたのか、ありがたう、ありがたう。うむ、よしよし、みんなすわれ、けふはな、ひきつ、ごはんを食べる前に、面白いはなしをきかせてやらう。あるところにな、チリミいふ男の子ミボリ

ミいふ女の子があつてな、それがお顔やからだは犬なんだが、不思議なことに、それがかかしなんだ。かかしいふのは、みんなも知つてゐる通り、田舎の真中にただいまつて立つてゐて、なんにもしないんだ、わしがな、お前たちはお家の掃除をしたことがあるかミキいたら、それはおばあさんのするこだといふんだ、朝のごはんが済むこすぐ、びおーいッとおそこへみび出して夜になるまで歸らないんだ。犬はやっぱり大でなければいけない、かかしぢやない。でも、なまけるこすぐ、かかしになるんだよ。お前たちは仕合せこかかいでなくて犬だ。さあ、みんなで、犬

「萬歳をしやう」。

「犬萬歳」

「犬萬歳」

「犬萬歳」

*
チン、チン、チン、チン。朝の四時です。

チリボリは起きました。

着物をきかへて、臺所へ行ました。

お掃除をして、火を起して、ごはんのお仕度がすつかり出来ます。ふたりはまた、着物をきたまま、お床へ入りました。

*
チン、チン、チン、チン。五時です。

「これこれ、おばあさんや」

「これこれ、お父さんや、おや、お父さん、もう起きてる
たんですか」。

「おい、なにをねぼけてるんだい。わしが起してやつた
んぢやないか」

「さうぢやありませんよ。あたしは、ひとりで起きたんで
すよ」。

「さうぢやないよ。わしが起してやつたんだよ」

「さうぢやありませんよ。あたしは、ひとりで起きたんで
すよ」。

「かかしなんかいやだね」

「さうね、犬だわ」。

すよ。

「わらうぢやないよ。わしだよ」

「わらうぢやありませんよ。あたしですよ」

「わしだよ」

「あたしですよ」

「まあ、まあ、まあ、それはさつちでもござりませぬ」

して、早くチリボリを起して來なさい」

「わらうだね、ざれざれ」

「おはあさんは、チリボリのお部屋へ入つて來ました」。

ふたりとも、ぐつり寝こんでゐます。

「これこれ、チリボリ、もう朝ですよ、早く起きなさい」

お父さんに叱られますよ、さあ、お起きなさい、お起きなさい

したんだい？」

「.....」

「.....」

「これこれチリボリ」

やがて、ふたつのおふみんがむくむくこ動いたかと思ふご、チリボリは急にお床のなかからはね起きて、おばあ

さんに抱きつきました。

チリは、青い洋服に縞のジボン。

ボリは、赤い洋服に格子のスカート。

「おやおや、お前たち、ゆふべ着物を脱いだ筈ぢやなかつ

たかし？」

「おはあさん、僕たち、今日からほんとうの犬になつたん

です、かかしちやないんです」

「なに？、かかしちやない？ほんとうの犬？」

おはあさんは、なにがなんだか、ちつともわかりません。

チリボリのあごついて行つて見ますと、吃驚しました。

「おや、すつかりお掃除が出来てるて、火が起つてるて、
ごはんの仕立まで出来てるるぢやないか。これは、だれが
したんだい？」

「犬です」

「.....」

「かかしちやないのよ」

チリボリは、この日から、かかしをやめて、本ものの犬になりました。(完)

國藝二月如月大岩金

氣節立節

雨春分

三日頃
四日頃
十九日頃

觀賞

今尙極寒の折からさて觀賞に供するやうな草花は前月に
ほゞ同じく溫室やフレーム内に栽培したものであります。
特別美しいのは洋蘭の類であります。

木物としては沈丁花がいち早く咲き出でました。

其外露地物で霜除下のクロッカス、金盞花、水仙、三色堇
なぎの點々と花の開きかけましたが目につき出します。
裏庭のフキノトウの白い花にも一日を通さずには行き過ぎ
られない氣がします。

仕事

一、防寒保溫につきめること

今月は前月に劣らぬ寒い日が多いのでありますから充分
に注意して溫室又はフレーム内の溫度は其中に入つてゐる

植物の最低溫度以下に下らぬ様にしなければなりません。
露地の霜除にありましても風や犬なぎのために損じた所
は更につくろつておくやう見廻らなければなりません。
二、一月にしました一、から六、までの仕事は大同小異
の方法によりまして今月も尙續けて行ふのでありますが記
述の重複をさせておきます。

三、繁殖

木物や果樹類の接木の時期であります。即ち梅、櫻、バラ、クチナシなぎの枝接を致します梨、桃、芋果なぎも同じ方法の接木を致します。

又柳、バラ、アデサイ、レンゲウ、櫻など落葉樹にありましては秋末の插木と同じく今のうち芽の動かぬ前ならばすよく充實した芽を數個つけて長さ凡十五厘に切りその枝の下端は節の下から斜に利刀で切りざりなるべく形成層の廣い面積が土に接するやうにしておきます、かくして切った枝は棒又は鏝で穴をあけこの中に插し込むやうにしまして切斷面を損じないやうにしておく事が大切であります。

雛まつり

梁田貞曲

二・ケフ ハウレシイ サングワツミ
三・みん ななかよあそ グンミを
モモヤ ザクランノ オハナヲイケテ
おひが あかるく おへやに
キレイニ カザツタヒダ
おはな おのこらす ナキダ
マヘニ ナランデ
おだいり なさま
セウ

土川五郎

雛まつり

一、今日は……左側下方にて拍手一回頭を左に

傾く

嬉し……右側下方にて拍手一回頭を右に

傾く

月……「今日は」に同じ

日……「嬉しい」に同じ

や……右食指を前方肩の高さに食指を

立て出す

櫻の……左食指を出し右食指と対立せし

む

お花をいけて……両手の掌を上にして並べ頭を前に少しづく下け「いけて」にてそれを左右に開く

きれいに……両手を掌を下にして體前にまごめて更に左右に開く

かさ……左足一步左へ左手(掌下にして)左上に指先を前にしてあぐ、顔は左上に向く

つた……右足を左足の前を越へて左へ、右手を左手の左にて上にあぐ

ひな……左足一步左へ左手を又左上に

だん……右足を左足の左へ運び右手を左の上左へあぐ

の……左足一步左へ左手を左へあぐ

前に竝んで……全生連手して右へ、左足をあげて跳ぶ、左へ右足をあげて

あそびま……跳ぶ、前と同じ

しよ……左足を右足に揃へる

一、皆……右左両生向き合ひ各拍手一回の後右手ミ、右手ミ打ち合ふ

仲 よく……拍手一回左手ミ左手ミ打ち合ふ

遊んでなれば……両生両手を取り左より廻はりて位置を取り換ふ

お日がお部屋に……両手を兩側下方より體前にまごめ更に両手を上より左右に開き掌を左右に向はしむ

あか……右足右へ右手を右上にあぐ

るく……右手を左下に流し、左足を右足の右に、左手を右上に運ぶ

さして……右足一步右へ右手を右上に左手を左下に開き、顔は左上を向く

お 花 も……左右生相對し拍手一回互に右足を斜左へ、右手前左手後ろに開く

のこらす……拍手一回左足を出し、左手前右手後ろに全く位置の交換をなして左右生が正しきもこの位置に歸る

(仲よく遊んでをればにて左右に變りたり)

咲きました……全生正面に向き両手を左右に開く

お 内 裏……六人づゝ一組となり手を繋ぎ静かに少しく両手を上にあぐ

様 も……静かに両手を下ぐる時

中の二人は其まゝに立ち

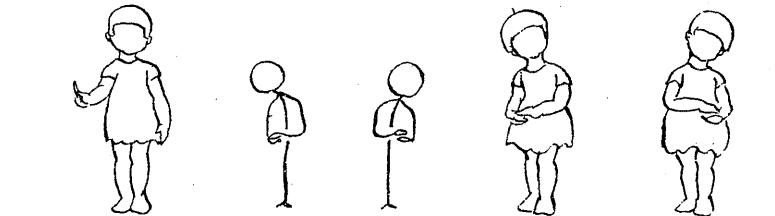
其兩側の二人は中腰ミなり

其兩側(左右のはしの人の二人は右又左膝を床にかゝむ

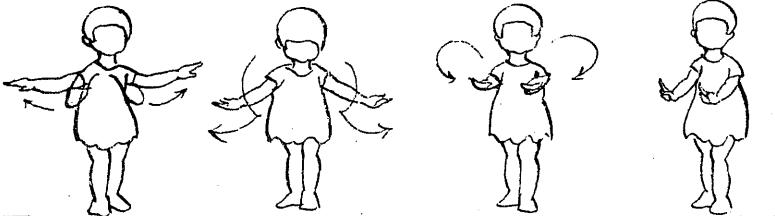
六人共手をつなぎ兩端の人があいたる手は左若くは右下へ流す

嬉しさう……兩側の四人は頭を正面の方に傾け中の二人は背面に傾けて見合ふ
次に反対に傾けて見合ふ。

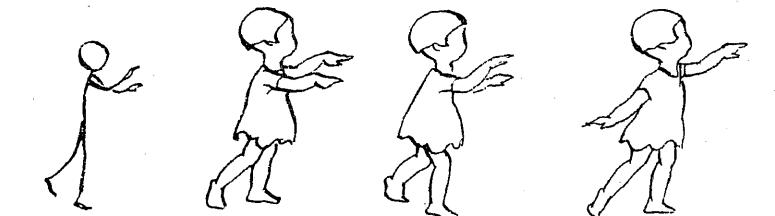
や桃 日三 月三 いし姫 は日今



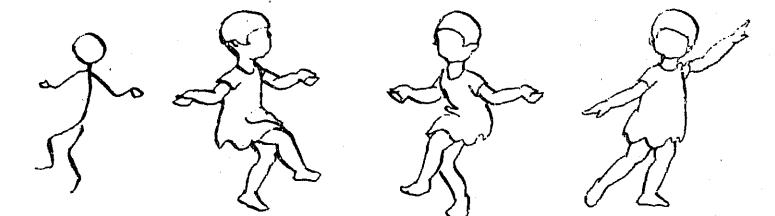
にいれき てけい を花あ の櫻



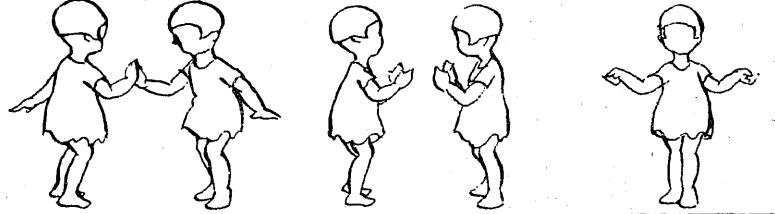
んだ なひ たつ ざか



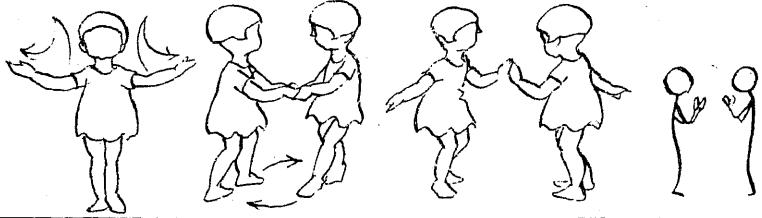
まびそあ でん並 に前 の



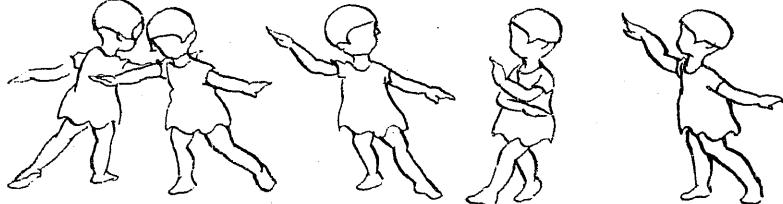
な ん皆 (=) よし



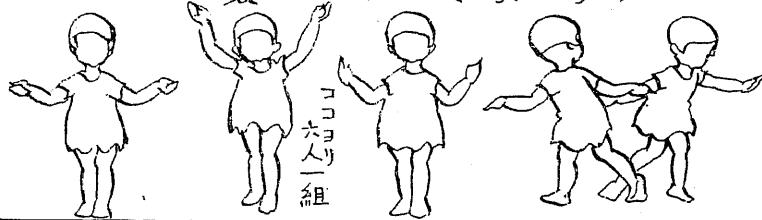
に屋部あいかげ日 あ ば水をでん遊 く よイ仲



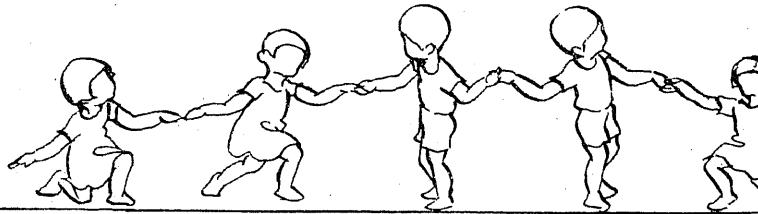
も花あ てしさ くる かあ



も様 裏内お たしまき咲 すうこの

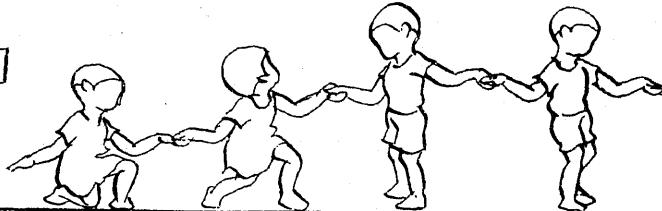


し 奈



ラ ニ

SINKITI



講話「いろいろの子ども」

倉 橋 惣 三

氣の弱い子

(一)

此の子は氣が弱くて困る、意氣地無しで困る云ふやうなお話を屢々伺ひます。其氣の弱い子供云ふのはさう云ふ意味であらうか考へて見ますと、其中に幾つも種類があるやうであります。

先づ第一には色々な物に對して氣の弱いのであります。

之を或は物怖じする子供も申しても宜いかと思ひます。總て子供は新しい物に對して非常な好奇心と興味を以て居るものでありますし、今までしたこゝのない経験に對してぶつかつて行く云ふことが、子供の一般として好む所であります。之を私共の言葉では、子供は絶へず自分の心に

抵抗を樂しまふとして居るといふ言葉で説明して居りますが、或る種類の氣の弱い子供云ふのは、此點に於て缺けて居る所があるのであります。別段そんなにむづかしい事云ふのではなく、なんでも今まで経験したこゝのない新しい事でありますと、直ぐにそれが其子の心持に一種の懲迫を與へて來るのであります。例へば新しく幼稚園に這入つたします。其幼稚園は自分も豫め入りたいと樂んで居つた學校であり、又心の中では其幼稚園を大層好いて居るのでありますけれども、唯々今まで行き付けてない新しい所だ云ふ事で、大層氣に掛かるのであります。又何か新しい問題が起つて來ますと、其問題は自分に取つて少しもむづかしくないにしても、俗な言葉で申しまするならば、新しい爲に度膽を抜かれる云ふやうな態度になるの

であります。是は普通の子供が總て新しい抵抗を楽しむ云ふことに對しての反対の性格なのであります。其子供の自我、即ち自分云ふ性格が弱いのである云ふことに期するのであります。元氣の好い子供は絶へず新しいものを求めて、其處に自分の力を試みて行かふ、隨て突張つて行かふ、押退けて行かふ、押切つて行かふ云ふやうな氣持が満ちてくるのであります。今言つたやうな子は其點に於て聊か缺けるのであります。必しも普通の臆病云ふの子は違ひ、お化が怖いとか、泥棒が怖いとか云ふやうな、總ての子供に有り勝ちの臆病とは違ふのであります。要するに新しい云ふことに對しての臆病であります。

次に、物に對してさう云ふ態度を執るのでなくして、人に對して氣遅れのする子供があります、之を人怖じする子供、こ申しても宜いかと思ひます。元來子供は總て人に對して無邪氣に、平氣に接して行けるのが當り前であります。或は大人の方でもつかしい顔をして居りましても、子供の極めて無邪氣な心持からずん／＼構はず親んで行く云ふ

ここが普通なのであります。ところが其氣の弱い子供になりますと、總ての子供に親しくなるのに大分時間がかかるのであります。どうも遠慮深く、思ひ切つて自分を其人の側に近付けて行く云ふことが出來悪くのであります。是も必しも其人が自分に對して恐しい人であるとか、或は惡意を持つて居る人であるとか云ふやうなことを考へて居るのであります。其人は自分に對して親しい態度をこつて呉れる、いゝおぢさんであると思つて居りましても、どうも何事なく近付いて行き悪いものが自分の心中にあるのであります。是は私達説明によりますと、一種の本能に基くものであるとも考へられる。即ち總ての生物は人間が人間同志暮して居りまするやうな平和な心易い生活をして居るのではない。互に弱肉強食、生存競争の劇しい中居るのであります。或る意味に於ては自分以外の者は皆自分を脅かして来る所の敵である。斯う云ふ風なことが生物界の事實であります。勿論同じ種族の者は互に敵となりて居るものではあります。されど雖も少しでも生存が危ぶなくなりまするならば、直ぐに互に噛み合

ふゞ云ふやうな風になる。其生物時代の生活状態は總ての相手に對して自分を護らなければならぬこ云ふ本能を生物に與へてゐるのあります。是は必しも何か酷い目に遭ひまして、其結果として畏れて逃けるこ云ふやうな意味ではなく、初からあらゆる者に對して自己を護る、自己を防ぐ、硬い言葉で申しまするならば、自己防禦の自然の心持が出來るのであります。是が人類にも本能的に存して居りますて、それが或る子供に特に強く出て來るのであります。但し是は學説でありまして、他の説も立て得られる譯であります。が、兎に角くさう云ふ事實は子供の性格の中に時々出て來るのであります。此場合に於ては必しも其子供の性格が弱いとか、或は自我が弱いとか云ふのみではありません。寧ろ其自然の本能が適當に訓練されて居ない爲めであるこ云ふやうな事にもなるのであります。例へば田舎の山の中に人に接することの少ない子供などにはさう云ふ風な事が多いのであります。私が極く邊鄙な土地に参りまして、子供などに遭ひますと、こちらは極く親しく近付いて行かふましても、どうもジロ／＼恐しさうにこ

ちらを見るこ云ふやうな事が屢々ある。是は其子供の自我が弱いこ云ふよりは、平生餘り色々な人に接しませぬ爲に、此相手を避ける、相手に對して自己を護るこ云ふ本能的なものが訓練されてゐないのであります。他の言葉で言へば、開けない、さばけない心持であるこ申しても宜いでせう。

以上、物に對して物怖じをする子供、人に對して人怖じをする子供、是は只今申しましたやうに、一方は自我の弱さであり、一方は本能の訓練されない爲めであるこ云ふことを於て、多少其性質を異に致して居りますが、要するに今までの前にある物に對して現在的に弱いのであります。之に對して少し趣きの違つたものがある。即ち今まで考へて來ましたものを普通の意氣地無しこ申しますならば、是から考へて見やうこしますのは、苦勞性こ云ふやうな言葉が合ふかこ思ふのであります。

此苦勞性こ云ふ言葉はどちらかこ申しまするこ、年を取つた人に多くありまして、年を取らない子供には極めて不似合のやうであります。併し時にさう云ふ性質の子供が

あります。其苦勞性云ふのは之を又二つに分けられるか
と思ふのであります。第一は將來に對して非常に心配す
るのであります。外の言葉で申しますれば、結果に付て取
越し苦勞をするのであります。自分の致しますこに就て、
普通の子供でありまするならば、結果は餘り考へない。或
は其結果は總て旨く行くものである云ふやうな、樂天的
なのが普通であります。此種類の子供でありまする云ふ
事毎に結果を悪い方に考へて見て、而も其悪い結果が次へ
次へ云ふ悪い結果を生んで行くやうな苦勞を心に持つのであ
ります。それ云ふ反対なのが第二種であります。此場合に
於ては將來の結果に就て取越し苦勞をするのではなく、自
分のした過去の事に就て、所謂愚痴を持ち続けるのであり
ます。自分で今更さうする云ふ出來ないので云ふ云ふ
も知らないではないけれども、ああ云ふ事をして了つた、
あゝ云ふ云ふはしなければ宜つた云ふやうに、過去が絶
えず自分の心の中にくつつき廻つて、大人の言葉で申しま
するならば、極めて愚痴ほい、未練な心持ちの持ち主であ
ります。其結果として矢張大膽に壯快に、元氣に生活して

行く云ふこが妨げられます。此苦勞性及過去に於ての
愚痴性云ふやうなものは、遺憾ながら精神の稍々衰弱し
て居る狀態であります。子供に對して甚だ不適當な言葉
かも知れませぬが、大人で申しまするならば、一種の神經
衰弱的の狀態であります。しかも此神經衰弱的の狀態が子
供に於きましては、必しも病的な意味ではなくして、單に
弱い性格から生ずる所の習慣である云ふやうなことが屢
々起ります。本當に病的な場合に於きましては、是は極め
て心配すべき特殊の子供になります。今回私の取扱ふ云
ふする問題よりは少し進み過ぎて來るのであります。
唯々一種の癖としてさう云ふ事が性格として養はれる云
ふ位のこには普通の子供に案外多いものであります。そこ
で斯う云ふ風な氣の弱い子供はざちらか申します云
おこなしい子供に見える。亂暴でない。殊に無茶苦茶なこ
こなさを決して致しませぬ。控目である。其爲に或る種類
の大人から見まする云ふ大變に賞められたり、氣に入られた
りする云ふが多いのであります。兄弟が幾人かありますて、
外の兄弟は極めて不遠慮に亂暴に振舞ふ中に氣の弱い子供

が居りまする、如何にもしそやかに上品である云ふやうな事で、お年寄の方なぎに氣に入つたりすることもあります。併しながら斯云ふ弱い性格云ふものは、それがどう云ふ原因であるにしましても、其説明がさう試みられるとこにしましても、今日の此盛んなる現實の生活に立つて行きまする上には極めて不都合な、極めて損な性質であります。又單に所謂社會的に自分を成功させて行く上に損である許りでなく、其弱い性格が總てのものに向つて眞實に大膽に自己をぶつけて行く云ふやうな、本當の生活を経験させないやうになるのであります。そこで私共は色々の子さんの中でも、此氣の弱い子供云ふものに對しては、一面極めていぢらしく思ひまする共に、斯んな事では困る。さうかしてもう少し張りのある、突き込み力のある、自己をざんぐ押出して行く性格にならなければならぬこ常に思ふのであります。

(二)

所でさう云ふ子供に對して如何なる教育的の態度を執るべきか云ふことは次に起る實際問題であります、之に

對して私は二つの事を考へられるこ思ふ。一つはさう云ふ氣の弱い子供は實に困つた事でありますけれども、兎に角く先天的に、或は後天的に總てさうなつて居るのであります。單に困難である許りでなく、急激に強く仕様する強烈なる取扱ひが更に一層に其子供の心を萎縮させて行く云ふやうなこも限らぬのであります。例へばさう云ふ氣の弱い子供を持つて居る親や先生が自分は非常にしつかりした氣の強い方であつたりしまする、如何にも我が子のして居るこ事が事毎にじれつたくてたまらぬ云ふ風になる。そこでそんな事でさうする、もつこしつかりしろ云ふ風に事毎にきびしく責める。勿論教育し様云ふ慈悲を持つてして居るのであります、唯々之を責め、非難して居るのではない事は勿論でありますけれども、其弱い子供は當り前の生活に對してさへも抵抗を感じ過ぎて居るのでありますから、周圍の者がさう云ふ態度に出て來まする、常に其抵抗に堪へ難いやうなこになら、殊に大人の方から申しまする、他人ならば兎に角お

前の爲に真心を籠めて居る、私のする事ぢやないかと申しますけれども、關係の密ならば密なる程其壓迫を感じる事が強いと云ふことは察してやらなければならぬのであります。さう云ふことが極端な所まで行きますと、其教育效果が現はれないのみならず、どうも其人と其子との間にまで一種の抵抗が挿まりまして、却つて面白くないことが起らぬとも限らぬのであります。人相應の教育をすることが普通の原理であるとすれば、其子相當の取扱から、徐々に、静々と努めて行かなければならぬことが第一に心得へなければならぬのであります。

併しながら是だけで其教育が出来るものではありませぬ。前にも申しました如く、氣の弱い子は要するに外に自分を本當にぶつつけて、自己を自ら試みて行くと云ふやうなさう云ふ機會が少なかつたのであります。心理的に申しますとならば、意思の練練が與へられる機會がなかつた爲に、其結果として自ら己れを信じ、自から己れを頼む云ふ自身の力が養はれずに來たのであります。故に子供を本當に強い者にして行く爲めには、自ら自分の力を持つ

て事に當らせる小さい抵抗を重ねて、段々に自己に對する自信力を加へて行くと云ふやうな所に總ての計劃を考へなければなりますまい。斯う云ふ弱い子供は多くは家庭に於て甘まやかされ過ぎた、可愛がられ過ぎた、私の能く使ひます言葉では大勢の人からホイヽヽ育てられて居るホイヽヽ子と云ふのに多いのであります。そらあの子がどうした、そらあの子に何をやらなければならぬと云ふやうに、一々傍から甘まやかされ過ぎた子供に多いのであります。故に口で酷しくしつづけることは、前申しました如く必ずしも效目が多くないと思ひますが、生活の事實に於ては、一生活の實際に於ては、其子相當な、出来るだけの事を自らさせて行くと云ふことは是非したいのであります。氣の弱い子供が適當な事をしまして、案外此弱い自分にもやれば出来るものである。此弱い自分も人に向つてぐんぐんで行けるものであると云ふやうな自信が何處かにつきました時の其子供の喜びと云ふものは非常なものであります。殊に相當の年齢に達しますと、氣の弱い事を自分も子供心に困つて居る場合があります。その際、實際の生活に

於て少しでも自ら自分の力を試し得たならば、非常な快感が自分に起ります。即ち、此快感、此小さい子供の誇り、是等を相當に蓄積して行く子供の性格の強さが養はれるゝ思ふのであります。而して斯う云ふ風な性格が段々養はれて行きますれば、常に現在を本位とした心持が一ぱいになつて、過ぎ去つた過去に捕はれたり、まだ出来ない將來に取越し苦勞をするゝ云ふやうなくだらない事はないなり、もつゞ自らを立てゝゆく力も此處に湧いて来るゝ思ふのであります。

私は愛すべき多くの子供の中に、氣の弱い子供が特に可憐なる、いぢらしい姿を持つて私共の前に來た時に、一方には其弱さを哀はれむ所の深い同情、而も其弱さに任せずしんぐん／＼自らを試みさせるだけのこちらの強い態度を以つて對して行かなければならぬゝ云ふことを常に思ふのであります。

此氣の弱い子供を見た時に於て反対の状態を現しますものが所謂氣の粗い子供であります、次には其方の問題に就いて考へて見たいゝ思ひます。

東京女子高等師範學校 保育實習科生徒募集要項

一、募集中員 凡二十四名

一、出願期限 三月十日まで

一、選拔試験

第一次 三月十七日

國語(解釋、作文) 理科(植物)

圖畫(自在畫)

第二次 三月十八日

音樂(唱歌) 身體検査並に口頭試問

詳細は貰錢切手封入の上同校教務

課に照會せられたし。

お茶の時代

—思ひ出をたどる—

雨森 銚女史は明治三十五年四月から、大正五年三月迄、女高師附屬幼稚園の保母でした。長い間分室(本園とちがつて、幼稚園附近に住む家庭の幼児を保育した所)の保育にあたつて居られました。去年の秋から御病氣で、お世話になつた人達は、それとなく氣がかりに思つてゐました。大變に快くおなりで、病院でも退屈な朝夕を送つてゐますといふお葉書でしたから、丁度それがお茶の水から大塚に移る頃でしたので、御氣分のいゝ時どなたかに筆記させて何かお思ひ出を頂きたいものと御願ひしましたが、その後病革り、一月には遂に逝去されました。

あとになつて先生の枕の下から、この原稿が出て來た由、吊間に參つた夜お宅の方から伺ひましたので、そのまゝこゝに掲載いたします。不十分な點があつてはならないからとて、或人に訂正をお頼みになつたさうですが、わざと、そのままにしておきます。

故雨森銚

幼児家庭 幼稚園の周圍數町の間の小賣商、番頭、火消、職人、労働者等の一家總動員で働くといふ程度、從て幼児も獨立心強く一人でさつさと通園しても來るし何事によらず家庭と幼稚園との連絡がこれて居た事。

幼児は 身體強く實務に馴れて居つたが神經系統に缺陷の有る者も多少あり、又一般に見聞が狹かつたやうでもあつたがお茶の水の園児である事を誇らし學校と保母とに信頼する事深く特に本園のすべてに敬意を表して居た事。

園舎は、男子師範の炊事室が何かのあひで近くに浴槽の跡もあり大人用の便所も其儘あり築土の上にからたちの生垣や椎の木の大木もあり廣い草原を越えて東南に本校の農園があつて虞美人草やトマト等が澤山作られてあり、遙聖堂寄りに弓場があつてこの丘には數十株の老木が茂つて居り園舎の前は小學校の花壇を隔てゝ小學第三部に向き合つて居ました。

設備としては軒下に三尺に六尺位の二ツのフレーム兼花壇裏の堀際に砂場をかけはづし式のブランコがあり、屋外水道栓があり、タ、キの流しがあつて金魚位は飼へるやうに壺を伏せてあり、汲入式の水槽があつて手洗はそこでして居ました。

此花壇や砂場は保母と幼兒と實習科生との力になつた物でした。

室内は一室きりで遊戯室兼保育室であり保育用具も至つて少かつたけれども天地自然の恩恵により人間社會の小い軌範に拘束されるゝ事なく彼等の程度にふさはしい場處を與へられて比較的朗であつた事を忘れ難く思ふ者であります。

保育の内容としては頻りに園外保育を試た事と天然物廢物等の利用を盛にした事と兎や小禽類を小笠原家の姫君から寄附されてそれ等と親しましめ鬼の花や栗等を幼兒が買ひに行つたり其姫君のお邸から四季折々の花卉や玩具や樂器等届けられ或は一部の成績物を觀察したり、雛祭りを見たり花壇の豆バラの花を頂いたりして高尚なる趣味を養ふ事と子供らしい作法を教へられて親も子も嬉しがつた事でした。

素質と境遇とに應じて特質は何處迄も延して不足な處は補導して靜に教へるやうにしたので子供ながらに眞面目に何でも爲さうと感謝して三年の保育を了つた子供もあつたと存じます。

保姆も實習科生も教生も勤勞又勤勞、質實に純朴に身を以て範を垂れる事に一生懸命でしたので或學者肌の教生は何の爲に高等教育を受けたのか解らぬとして分園の教生になるのを安く買はれたと誤解した程でした。

其後其園舎は本校の家事科の實習室となり、分園は幼稚園第二部改稱されて昔の通り裏門に近き三間に四間の木造の一棟。本園の小便室に近き一室に收容される事となつて、専屬の遊具は砂場ミブランミ小道具だけになつたが、遊戲室は本園ミ一緒でピアノ音に浮き立つやうになり天然物は梧桐や銀杏の實を採收するのミ藤の葉柄を拾ふ事位に限られて保育の内容も幾分手技手工を多く加ふるやうにはなつたけれど、兎に角経費少くして最も將來ある方法を講じて居つた事でしたが、今から見れば階級の念が顯著であつたかも知れません。何故かなら、一部ミ二部ミ接近すればする程教生の中にさへ、二部を好まぬ人もあり、幼兒自身も一部の幼兒を見て一部の方ミ尊稱し一日も一日も置いて居た事は事實でしたから。そして實際、生活戰線の戦士でなければ勤まり兼ねる激職でしたから。



保育實習科第一回卒業生(明治十三年頃)

小 林 之 し

長き歴史を有する御茶の水幼稚園の新舎に移轉の事は慶賀に堪えぬ事存じますが、顧れば永き年月、此懷かしき園舎庭園並に小さき芽生が今は大やうに樹木ミ成りし此光景を視ては情に於て忍び得ざる事存じます。然し新園舎に向ては大なる希望に充ちた思ひを荷ひ多くの幼稚園に模範を御示しに成る事をおよろこびしてお待ち申して居ります。

授私共の思ひ出ミ申しても餘り長く生きたるへ何も記憶に残るものにては御ざいません。ござりきめて記する程の事も御ざいませんが、一二を記しますから御取捨を願ひます。

明治十二三年の頃は幼稚園を理解して居る者は少數故從て貴顯富豪の子女のみたりし。保育はフレーベルの二十恩物にして唱歌は雅樂所作なるが故に幼兒に興味薄く自然言葉が六ヶ敷幼兒には至難なりとお思はれました。

一二三年よりはメイソン先生の唱歌により少しく興味を添へた感もありたり。然し是にて幼兒にての作に非らざれ

ば到底只今の比に非ざりし。

机の上に方形を畫くし又石盤も同様にて是を使用す。此の方形は積木板排箸等を置くに便ならしむる爲なのでした。手杖さじとしても幼兒相當ごうとう云ふ目標なく、織紙でも大形で縦線細く幼兒には不適當なりと思はる。其他も幼兒に至難なるもの故從つて保姆が助けるきずける事に成り勝なり。

春の候庭園にて遊びし時クローバーの花を摘みて花輪はわとして首輪腕輪などに作り各兒自から作られし時なごは嬉々うれしうれしてよろこび遊ぶ様子の愛らしくみました。

又藤棚の下に遊ぶ時は此花を拾ひ一まゝいまとをして遊ぶまわきは東の御殿に參るさんこか西の御殿から頂おほきましたこ申されたり。是は岩崎さんの令嬢めいようでした。

此時代は便利な電車自動車のなき時代故、西郷さんは洋服を着、曳馬けいばに乗りて通園せられたり。其様子の優らしくありましたここ存します。

關先生の事を少しく書かして頂きます。

先生は人格者にて信に尊敬すべき方でありました。幼兒を愛し又實習生じじゅせいを良く指導された、良師りょうしでありました。又幼稚園に熱誠ねっせいであられました。先生の幼稚園を設立されしには非常なる困難なりし事を御話してありました。夫は昔の事ですから當局の方でも學校の方でも幼稚園に理解有る方は無いこ申してもよい位どございましたから。先生の御苦心は容易でなかつたここ存します。

不幸にして先生は病を得られたるも押して御出勤ごしゅきんでしたがだんぐり病だんぐりびひ重く成られたるも、病にもひるここなく幼兒を愛し私共わたくしにも御教訓ごきゅうくださいました。然るに病は進み遂に病床の人ひとになられました。依て私共は度々御見舞致しまし。何時も御悦びにて良く御話ごしゃしをしてくださいました。是も僅かの間に御危篤ごあいとに成られ面會謝絶の哀しき報に接し

ました。私共は居ても立ても居られずせめて御面會は成らずも蔭にて御伺ひ申さん三二三の者御見舞致したら是非會ふこの事で御見に掛りましたが衰弱甚だしくお口も常の様になく實に哀しき御様子に見受けました。果せるかな翌日遂に御他界になりました。

先生は園の爲め幾多の思を胸に納め、又御家庭としては御子様は少く、思へば先生は萬感の思ひにてなやみに々永眠せられたる事を思へば胸が一ぱいに成り止めざもなく涙が出ておさへる事が出来なかつたのです。此の師の君に幸なき事は殘念に思ひました。然し今は幼兒保育に至ては世界的良師の倉橋先生が御出に成り保姆の養成に御盡しくださいますから關先生も地下に於て定めし瞑福せられたる事に信じます。

關先生の功績を思ひて私共心ばかりの碑を建てました。形はフレーベル先生の碑の如く、立方體圓柱體圓體を組合せたものを谷中のお寺に建てました。



保育實習科第一回卒業生(明治三十年頃)

山 口 政 子

今年十一月二十九日開校第五十八回の記念式を挙げられましたお茶の水女子高等師範學校は去る大震火災のためにこのなつかしい名のお茶の水幼稚園は愈々本年末二十四日のお集りを終りとして大塚の新園舎にお引移りになる事云ふ。園舎の壯麗な設備の完全なる此新園舎に新年をお迎へ遊ばす諸先生方又は幼兒の皆様の御芽出度御移轉を御祝福申上げ度存じます。

しかしながら見てのもの運び終らてきて空虚な園舎に終りを告げられて一步一步園舎に遠ざかりゆかれる時の御淋しさを深くも偲はれる御事でせう存じます。かかる折古き思ひ出を送れこのお言葉でありました。けれども四十年の昔

をたざりますには餘りにもおほろげでありますのが不充分の點はおゆるし頂きました 一つ二つ思ひ浮べて見る事に致しました。

入學の出發ご致しましては、四國の一隅徳島縣に小學校訓導として職を奉じて居りました私は、常に東都の遊學を希望して居つた折柄、ある朝の新聞に女子高等師範學校保母練習生募集の廣告があつた。夫は明治二十九年九月六日の事であつた。願書は十日迄云ふ事なので急ぎ母の許しを得、縣廳からの總ての手續をお願ひした。しかし當時縣の方々は幼稚園の實際に就て餘りにも不案内であられたから卒業後の結果に付て安心する程度でなく私も又一度も保育の參觀をして経験もなく不安の點もあつたけれども縣のお力添へを頂き昭和の今日も一三日を費す郵書を其頃交通の不便の折柄果して規定の十日に學校へ届くかどうか氣患ひであつた。けれど九月の八日には四國から遠く東都へ願書を送つた。一方奉職の學校では東京の試験の結果が未定のため失敗の場合をお察し下さつて休職の手續を探つた云ふ事を上京後に耳にした。

愈々九月十一日果して入學するや否や不安の念にかられながら友達知人に見送られて出發した。その時知人から錢別としておくれたものに

咲きはえて都にかほれ菊の花

云ふはげましの言葉もあつた。

現今では千七百噸級の汽船の通ふ航路もその昔は僅に一二三百噸の小舟に生命を托して鳴門の潮流を横切つたり由良海峡の荒浪を乘越す苦勞もあつた。又東京神戸間の鐵路も今では八時間云ふ交通の便利もありますが其頃は日清戰爭後の關係もあつて二十時間もかゝつた感じがいたします。

十三日汽車は名にのみ聞いた新橋驛に着いた。願書は無事に届きまして十五六兩日試験を受ける事となつた。この試験

の朝國を同じうする坪内きく子さんが突然姿を見せた。坪内さんは私の奉職學校に數丁離れた同じ町の小學校に奉職同じ役所の手を経、同じく休職になつて上京したにもかゝわらず今こゝで出逢つた事は嬉しくもあり又驚きでもあつた。

受験は體格検査口頭試問其他豫定の順序を経て九月二十日入學許可の御通知を受けた。私のため入學を祈つて下さつた故郷の母及友人知人に通知する事の幸を得遠く上京した目的も達しられかくして第一回練習生として入學を許された。其人員は十五名、内二人は病氣其他の理由で退學十三名であつた。府縣別に申します。

東京四

四國三

大阪一

兵庫縣一

長野縣一

石川縣一

岡山縣一

九州一

當時の先生を思ひ起します

校長秋月新太郎先生

學監中川謙二郎先生

南摩網紀先生

奥好義先生

坪井玄道先生

新莊先生

竹村千佐子先生

主事大久保介壽先生

又保育の御擔任先生として

下田たつ子先生

吉田幸子先生

吉村千鶴子先生

里村なを子先生

神門もさ子先生

梶原鉢先生

先生方は田舎ものゝ萬づに不馴れな行届かないものをやさしくもお導き下さいまして日に月に幼稚園を了解し楽しく保育の道にいそしむ事の出来ました事は私達に取りまして仕合せな事でありました。

當時の幼稚園は今日の保育室を開誘室と名づけて居りました。組の名は一二三と云ふ數字で呼び私は二の組を香川縣の前田リエ子さんと二人で擔任神門先生の御指導を受けました。神門先生は私の卒業後間もなく支那駐在瀬川領事の夫人として御退職幾年もたゞ内に彼の地に於て逝去遊ばされました事も思ひ出の一つであります。

其頃の保育項目は十二月號に御掲載の大同小異でありますから省きました。

入學當時は皆日本髪が多かつたが入學後次第に束髪に變つていつた。服装は袴もつけなければ羽織又は帶姿であつた。質素を主として絹ものは可成遠慮する様、羽織の丈の寸法なども餘り長からぬ様注意する事、又學校に於てある用務のため歸宅のおくれる場合などは一々通信簿に其理由を明記し保證人の捺印を求める方法であつた。生徒は必ず保證人の宅に寄寓する御規則であつた。

在學當時のお茶の水は正門に入るごろ右の方に板塀があつた、夫は男子師範との界であつて今の様に廣くはなかつた。幼稚園の前には大きな池があつて鯉が澤山居つた。幼兒はいつも麩をやつてよろこんだ。女學校や小學校の生徒さんが紫の長い袂に赤い帶をしめた美しい姿で池のほとり橋のゆきくななどは連れも優美であつた。この頃お茶の水は華族様や富豪の御家庭の方が多かつたので門内は毎日幾百臺と云ふ人力車や馬車が供まちをするために一杯であつた。

在學中最も畏れ多き御事は三十年の春の英照皇太后様の御崩御であつた。一同業を休み悼み奉つた。

又嬉しかつた事は坪井先生の體操の時間にふご教授を中止され今丁度聖上陛下大學校へ御行幸のため裏門御通過の時刻こなつた急ぎ裏門にて謹み拜すべしと仰せられた。一同先生の御仁慈を謝し裏門にて拜する事の出来ました事は田舎の私の取りまして嬉しき極みであつた。

在學中の東京市中は唯品川八つ山から淺草雷門へ通ふ一筋の二頭曳馬車と人力車のみであつた。私達學生は道の遠近にかゝはらず徒步が唯一のもので今日の便利な乗もので通學されます皆様方はお仕合せだと思ふ。

かくする内に三十年十月を迎へ豫定通り第一回卒業生として盛大に卒業式を舉行され愈々幼稚園の職員として世に立つ事となつた。

卒業生は京都師範岡山師範濱松幼稚園へ、八田寧子さんと私は大阪へ赴任、坪内稻石のふたりはお茶の水に残り、或は九州へ横須賀へ奉職した。明治三十年より昭和七年まで四十年近くなつた。嘗て入學當時卒業後は永くこの道のために盡しませうと大久保先生にお約束したのであつたがこの永い歳月保育の庭で過しました事は先生へのお約束を幾分盡す事が出来ました事を嬉しく存じます。拾三人の卒業生の内次第に音信不通となりたるも卒業以後今尚この道をたどつて居る人は東京の和田くら子さん横須賀の福本さん夫に私の三人である最近まで名古屋の坪内きく子さんが第一幼稚園に居られたが病ひのために退職された事は殘念であつた。同じ卒業者の中でもお茶の水に近い場所に住むために他の人達に較べて母校の門をくぐる事も數多かつた。夫丈に先生方の御指導を頂く事も深く今月を限りお茶の水お引移りに際しまして數多く出入も繁かつたために一入思ひ出も深く偲ばれながら芽出度御移轉を御祝ひ申上げ非常な御繁忙であらせられた諸先生の方々の御疲れを御厭ひ遊ばれます事を切に念じまして筆をおく事に致しました。

○

明治三十五年から同三十八年まで在園
桂　　和　　歌　　子

今日計らずも御依頼を受け、文才に恵まれぬ私が、在園當時の回顧を認めます事になりました誠に困却する次第でござります。しかし御縁故の深い幼稚園の事でござりますから、兎も角思ひ浮ぶまゝを唯書きつらねて見る事に致します。

昔は應募者の少かつた爲か今のやうに入園がむづかしくなく、私の兄姉七人も此幼稚園の御世話になり、今より三十年前、末の子の私まで、御厄介になる事になりました。丁度五歳の四月でございます。其頃は一ノ組、二ノ組、三ノ組と申

し、一番小さい組にはいつて八歳で一ノ組を終へ、小學校へ送り出して頂きました。

湯島の通りを本郷三丁目の方から徒歩で通ひました。雨の日は、小島さんの御姉妹、私の小さい姉、私と四人一緒に人力車につまれたものでござります。校門をはいる廣場の真中に、馬車廻しの植込みが有りその邊に一三三本の大きな銀杏の木がそびえてゐて秋には美しい金扇を拾はせてくれました。

御庭には大小のお山と大きなお砂場があり藤棚の側にさんご樹が茂つてゐてその丸い葉で草履を作つて遊びました。北側の練瓦塀に添つて椎や櫻が並び、ドングリ、なきを、拾つてポケットに入れた事もございました。裏庭にはお池もあり、兄の植えた、青桐が脊高く、紫の露草が美しく咲亂れた頃も、目に残つて居ります。建物は洋館で子供の眼には大變大きく感じて居りました。なだらかな木の坂で庭への出入が出来ました。玄關の左が職員室で奥のつき當りが遊戯室その右隣りの御部屋には珍しい玩具が陳列されて有り。おいたをしきたり、おだぢさんは、そのお部屋へ、しばらく、入られたものでござります。主事の先生は初め中村五六先生、後に東先生にお變りになりました。受持はおやさしい下田たづ子先生で隨分御年寄のやうに存じましたが、今も殆んどお變りなく不思議に存ぜられますが、子供の時の感じは違ふものでございます。其外お靜かな雨森先生、お美しい武井先生、なきおいでになり、教生の先生では小此木先生、中川先生、小西先生を覚えて居ります。同級生は四十人餘りでございましたが今でも御交際頗つて居ります方は、高嶺さん、飯田さん、渡邊さん、又原さん、阪谷さん、矢作さん、山川さん、小林さんで男の方では豊川齋さん、入澤民政さん、なき思ひ出されますが、保育満了後は殆ど御目にもかゝらず殘念な事に存じます。不器用な私は粘土細工や豆細工でよく泣きたくなつた事がございました。脊の高い色の白い爺やの小使さんがよく面倒を見てくれました。

毎日課業の終りにはオルガンに合せて、各組とも別々に「今日の稽古はすみました」と云ふ唱歌を歌つて、先生の御見送りを頂いて歸りました。土曜日には、幼稚園恩物と申し、美しい御細工のおみやげを頂いて、ほんとうに喜び勇んで

歸へりました。

丁度三ノ組の時、明治三十五年十月二十八日、時の皇后陛下の行啓を仰ぎました。私どもはお庭で「雁々わたれ」と「桃太郎さん」の唱歌と遊戯を御覽に入れました。

一ノ組の時には日露戰爭當時で遊びは凡て戦争ごとでございました。男のお子は、お山の上や、木の蔭等で、勇敢に戦はれ、女のお子は、赤十字の腕章を巻いて負傷者の後送と看護を致しました。

服装は、メリソス、や、銘仙、久留米絣の筒袖の看流しに、エプロンを掛けて、靴をはいて店りました。男子も洋服の方は極くまれでございました。式日には質粗な紋服などに袴をはいて参りました。式は今さ違ひまして幼稚園だけ別に遊戯室で致しまして男女二名の園児が總代になつて祝詞を主事の先生に申し上げたやうでございます。

髪はおかつぱに致して居りまして小學校入學前後から、のばしてたばねる位でございました。

唯今私は長男を送り毎朝なつかしい母校の幼稚園へ通つて居ります、親も子も同じ學校の御恩を受けられました事を心から有難く存じて居ります、大震災の爲に校舎も校庭も全部變り、保育法も最新最高の方法になられまして昔のおもかげはございませんが、ここなく昔をしのばれる高尚な傳統のうかゞはれる事は私の喜びに絶えぬ處でござります。

その校恩を思ふ時、私は心して表より裏より我が校の精神を幼き者に移し植えて將來の正しき日本國民たらしめるやうにつきめなければならぬと覺悟するのでございます。

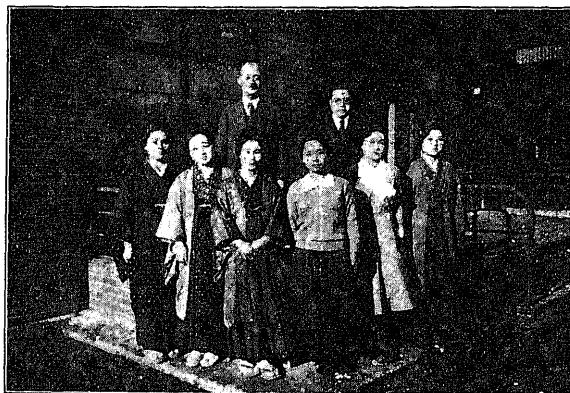
——昭和七年十一月七日——

たより

○皆様 お障り
もいらつしや
いませんか、
此保育期ほど
ちらも御多用

のこと、私共も移転につづいて、住んで
みて、がらの備へつけの数々、小学校入學、
新入園児の検定、保育の修了、夫から、夫
からと、誠に忙しく、從つて風邪をひく、
といふ年中行事をしてゐる暇もなく、一
元同氣に過して居ります。

○陽のいろに、木々の蕾に爛生の春の氣配
も見えて、思ふさま大氣を吸つてみたい
きのふ今日、のび／＼と内部にひそむ力
を發露するにはまことによい時でござい
ませう。新園舎に移りましてからはさす
がに建物から受ける心境の變化とでも申
しませうか、追憶もさる事乍ら、新興幼
稚園の意氣大いに旺んで、從つてこの編
輯長K・K女士も、みんなが、子供をかへ
してはつと一休み、一寸お茶をなど、丸
卓子に皆の顔が揃つたら最後、お茶がま
だのどを通らぬ中、編輯室を、人々とまづ
口切り、これ全く、編輯係の責任など、
いふよそ／＼しい事ではなく、全日本幼
稚園界に、少しでもよい保育雑誌を日々
お送りしたいといふ真心でございます。
○何しろ新築園舎に住むのでござりますか
ら、朝夕のお掃除にはみな全力を注いで
主事理想の計畫になる庭園の完成に近き



居ります。殊に倉橋主事は隅から隅迄よ
く目がお届きで、手も足も至つておまめ、
槍とも見まがふいとも長柄のはたきで、
そらく高くしおのびやかに張られたもの集

を拂ておいでのある朝、わら、今日は先
生のお當番日にしてしませうなんて保母
一同が決議いたしました。

主事理想の計畫になる庭園の完成に近き

にひかに忿心の笑をふくみつゝ、庭をお
掃きになります。或は、玄關前に落ちて
ゐた新聞紙をステッキの光にひつかけて
は、くづやでございなどと若い人達を
おどかしたりして、ひたすら園の酒掃に
精進していらしゃいますから、折角出来
た主事室も席温がならずと云ふ調子。
かうして住んであれば、つい先達引越し
て來たとも思はれず、すつと前から此處
に居る氣もすれば、遠い／＼と案じた往
還の途にも、日毎親しみも増して、負ひ
目とも感じなくなりました。こゝは省練
大塚驛から市電を使ふ人もあれば、歩い
ても十七八分といふみちのり。從来は餘
りその徒步の姿を見ゆ倉橋主事（何故か
と云へば、生粋の江戸つ子であり乍ら、
東京市内の交通は誠に不案内で、確かな
のは自室と幼稚園の往復のみ他は殆んど
案内つきなれば、つづいて、F・Oさん（こ
の人時々逆反する癖あり）K・Kさん、T・
Tさんは徒步組で、今朝も今朝で、同じ
道を、私は電車、Oさん、Tさんは二
人並んで徒步。自然私は先になりまし
た。後から先では失禮と、車掌臺から、
徒步の二人へまづ儀禮の一つとして朝の
笑顔を送つたのですが通じません、更に
おちぎなしたのですが駄目。隨分真直ぐ
向いて歩いたのですね、笑顔もおぢぎ
もよせばよかつたと思ひました。

○新園舎にうつつて、保育第一日にうつし
た記念の寫眞、一同顔を揃へて御らんに
いれます（よしこ）

日本幼稚園協会編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 吉岡鄉三
主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主任 倉橋惣

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園
ノリ見教育ニ萬示一

ルモノトス

五錢ヲ釀出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事

テ客員トナスコトアルヘシ

會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力云與ヘラル
モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアル

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。
但陽合ニヨリ臨時總會スレコトヲ具

一、幼兒教育二關スル研究及ヒ調査
一、幼兒教育二關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

第十一條 主幹 韓事 許賈員ハ二ヶ年
ヲ期シテ命令ヨリ推舉スルモノトス
第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ
設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分
ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變
更スルコトヲ得ス

第九條 本會之左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 會務ヲ總理ス
幹事 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メ
タル事件

雑誌發行(毎月四回)
一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
二、保母就職及招聘ニ關スル仲介
三、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メ
タレ事件

價 定	
一ヶ月分	一ヶ月分
冊送金	冊送金
料拾五圓	料拾五圓
六ヶ月年分冊送金貳圓料壹圓拾共錢	六ヶ月年分冊送金貳圓料壹圓拾共錢
告 廣	
一等面一頁金貳拾五圓御斷以下	一等面一頁金貳拾五圓
二等面一頁金貳拾五圓	二等面一頁金貳拾五圓
神田區南甲賀町八品田	神田區南甲賀町八品田
奥松に御申込下さい。	奥松に御申込下さい。

定 規 文 注

不許複製

幼兒の教育 第三十三卷 第二號

發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園
會社合資
常則山柴印 刷 所

發編
印輯者兼
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
倉橋惣
印 刷 者 柴山則
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
常

す。
（郵券代用の場合には總て一割増）
東京一七一六番日本幼稚園協会宛に願ひます。
送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄
と明記せられねどし。
本誌の代金に對しては別に領收證を差し出しま
せん。特に御入用の方は往復はがきで御申越を
願ひます。
會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜
誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから
其節は早速御送金を願ひます。
本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發
送を願ひます。

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

新常小學唱歌

新常小學唱歌及解說

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

子供への舞踊

土川・印牧・三浦・濱井・戸倉・宮寺諸先生の振付で、舞踊書の標準書江湖に薦む。

エホンシヤウカ

ハルノマキ
アキノマキ
フユノマキ
定
送
料
貳
錢
金
拾
錢
五
錢
五
錢

新高等小學唱歌

第一學年用 各冊 金廿五錢
第二學年用 各冊 金廿四錢

卷一・二・三・四
低學年用
高學年用

各冊 金六拾圓
送
料
各
金
六
錢

第一學年用 第四學年用
第二學年用 第五學年用
第三學年用 第六學年用
第五學年用
第六學年用

定價 各冊 金拾貳錢
送
料
一冊金二錢
六冊金八錢
全國各小學校に普及徹底せる
良書
文部省檢定済昭和七年一月十四日

東三
京崎
市町
神一
田ノ
區二

番〇七七四六京東替振
番三三八田神話電
會協版出書教育音

作新昭和幼年唱歌

第一輯目次

第二輯目次

昭和幼年唱歌 第三輯

昭和幼年唱歌 第四輯

伴定送
美附各
本錢錢

廣島高師教諭 山本壽先生著

菊判 美裝函入
定價 四五〇

音樂教育の三大方面

小松、梁田、葛原先生著
文部省認定 小學歌曲選集

小松耕輔先生著自第一集至第三集
定價 四六倍判美裝

梁田貞歌曲
小松耕輔歌曲集

梁田貞先生著 自第一集至第五集
定價 四六倍判美裝

作新昭和少年唱歌

第一輯目次

第二輯目次

昭和少年唱歌 第三輯

昭和少年唱歌 第四輯

伴定送
美附各
本錢錢

小松葛原・梁田先生著

大正少年唱歌 合本

菊判クロース製
定價二圓五十錢

大正少年唱歌 合本

小松葛原・梁田先生著

釘装伯画 雄良水清

園長先生
人參食
べて
る
毛さん
猿はひっかく
鸕鷀のお家
蟲がはねた
ベンギン

第一輯目次
お宮ごお寺
飯梯の種
み握り
がつきました
ベリカン
夕立やん
牛 さ馬
羊子供山
羊山
はまべの子
私の箱庭
日暮山
霧

第二輯目次
お家にあかり
河馬ちゃん
早く繪や字をか
きたいな
すべり臺
お芋ころころ
たんほほ坊主
がつきたい
たんほほさいた
地下鐵道
田園の雨山の雨
アンテナ線がゆ
れています
蛙のブール
私のひよこ

第三輯
昭和少年唱歌
第四輯
朝日がでてる
煙の環
二列三列桐並木
五月の節句

早起き
子兎踊

京東番
口座八
振替二
丁目三
市神田
河駿

日書店發行



園名入保育證書御用命は二月末日迄

以後は貴需に
應じかねます。

◇保育證書——堅緻な厚手上質紙に文字墨刷、輪廓金刷、夫々姓名年月日を書き入れます。

一〇〇枚 園名入 金 四 圓 ◇出席簿用紙——一〇〇枚 金 一 圓

五〇枚 園名入 金二圓五十錢

◇豫定案兼日誌——一 冊(二年分) 金一圓二十錢

無 名 一枚 金五 錢

◇在籍簿用紙——一〇〇枚 金八十錢

◇月 謝 袋——一〇〇枚 金一圓四十錢

卒業園児の寄附による記念品は

御園のため、永久的に生命ある弊社製品の御選擇が最も有意義。さてその好評の品々

◇波動廻轉塔 八〇圓 ◇コンビネーション運動具 八五圓

◇子供の家(社會遊び) 八七圓 ◇樂隊遊び用樂器 一八圓

◇スマール・セット 三五圓 ◇太鼓梯子 四〇圓

◇人形芝居一揃 四五圓 ◇鐵製二人乗ぶらんこ 五三圓

◇大型二十人乗シーソー 七〇圓 ◇大型鐵製滑臺 七五圓

◇桿登り 一二〇圓 ◇箱積木 一八〇圓

(昭和四年五月十五日第三種郵便物認可)
毎月一回十五日發行

昭和八年二月十五日發行

昭和八年二月十二日印刷納本

定價三十五錢

株式會社 ルベーレ館

番七二八三(33)段九話電・内館會育教・田神・京東 店店 本支

番八三一六局本話電・三町野平區東・阪大